

長期優良住宅申請テキスト

[本編]

平成25年省エネルギー基準対応

茨城県産材普及促進協議会 編

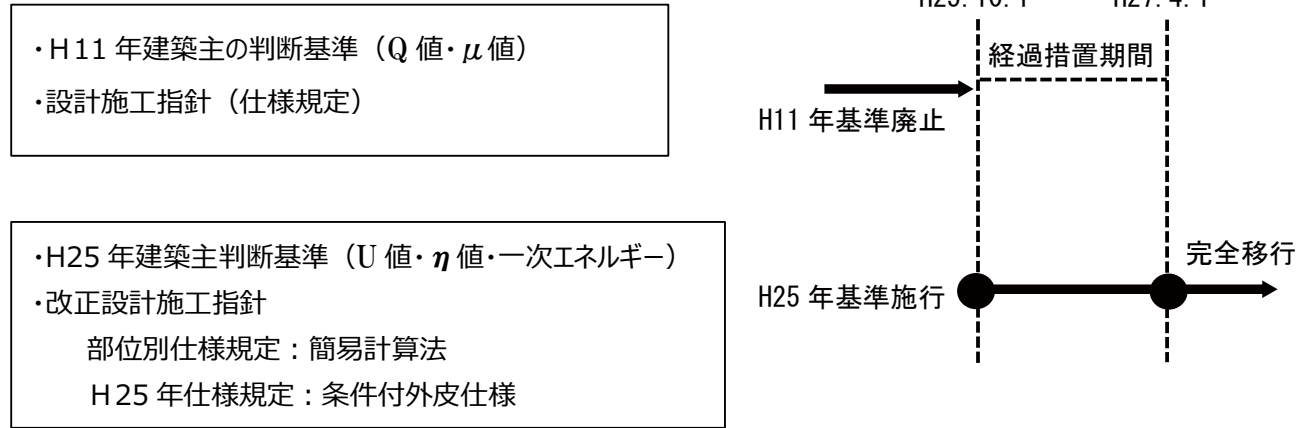
茨城県木材協同組合連合会

2015年10月版

平成26年度 木材需要拡大緊急対策事業

改正省エネルギー基準について（H11年→H25年）

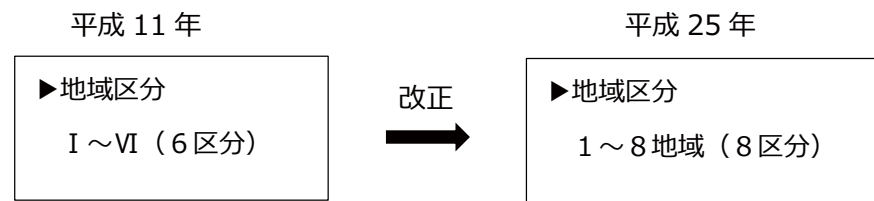
1. 改正省エネルギー基準の施行スケジュール



※ H32年までにすべての新築住宅・建築物について段階的に省エネ基準への適合を義務化することが、「日本再興戦略（平成25年6月14日）」で閣議決定されています。

2. 改正の概要

2-1・地域区分（細分化）

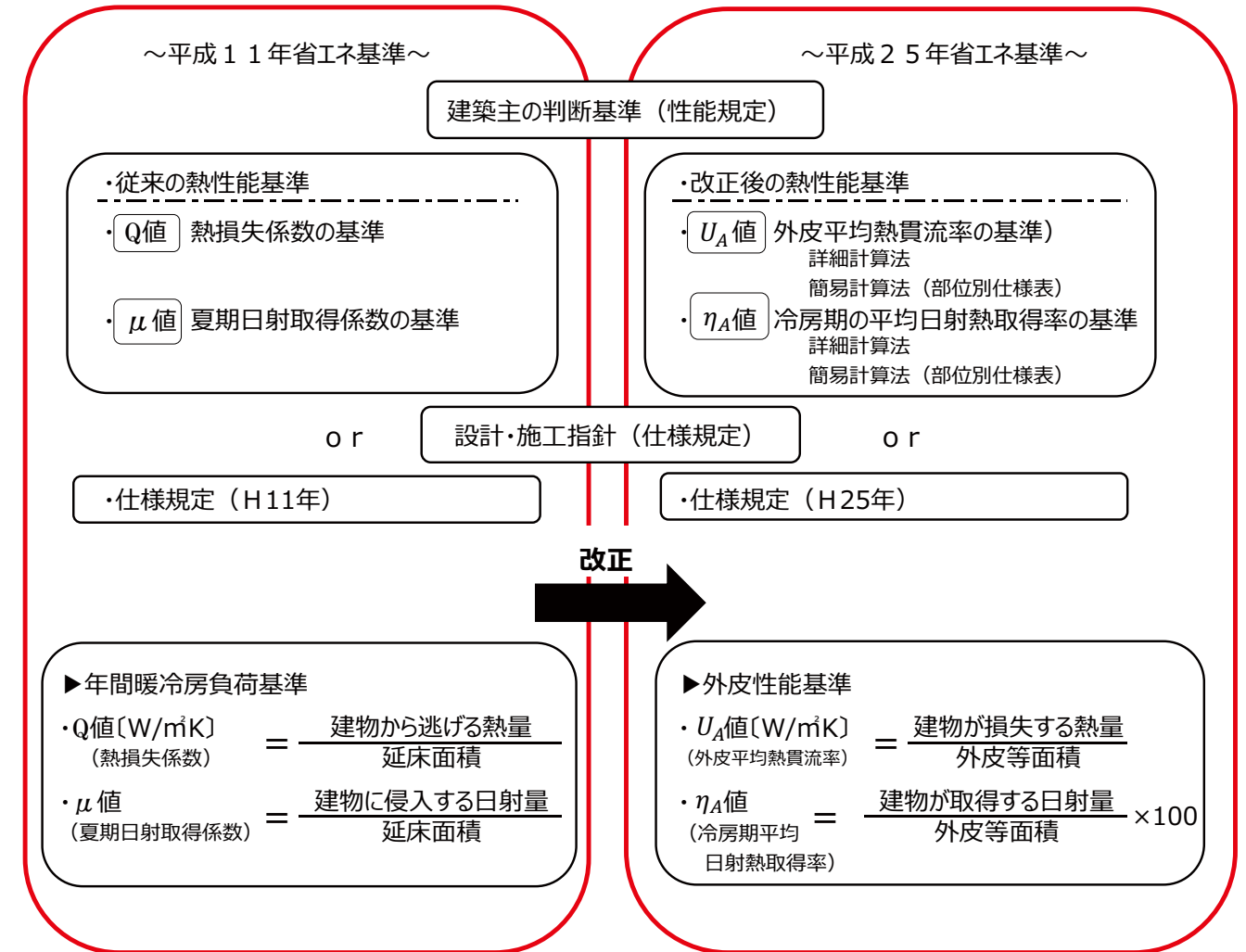


外皮性能の基準値（基準値以下であることが求められます）

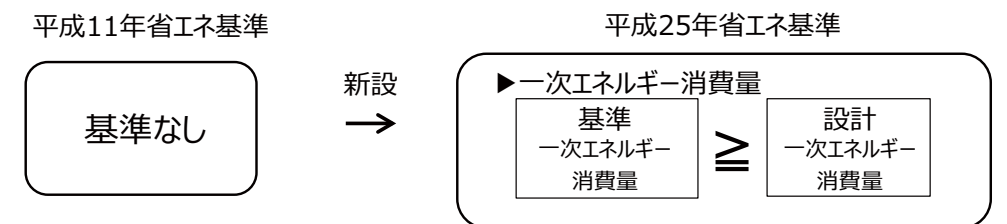
地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率の基準値： U_A (W/m ² ・K)	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—

地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
冷房期の平均日射熱取得率の基準値 η_A [-]	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	3.2

2-2 外皮の省エネ性能



2-3 設備（暖冷房・給湯等）も含めた基準が追加された。（一次エネルギー消費量の基準）



※長期優良住宅では審査対象ではない

目次

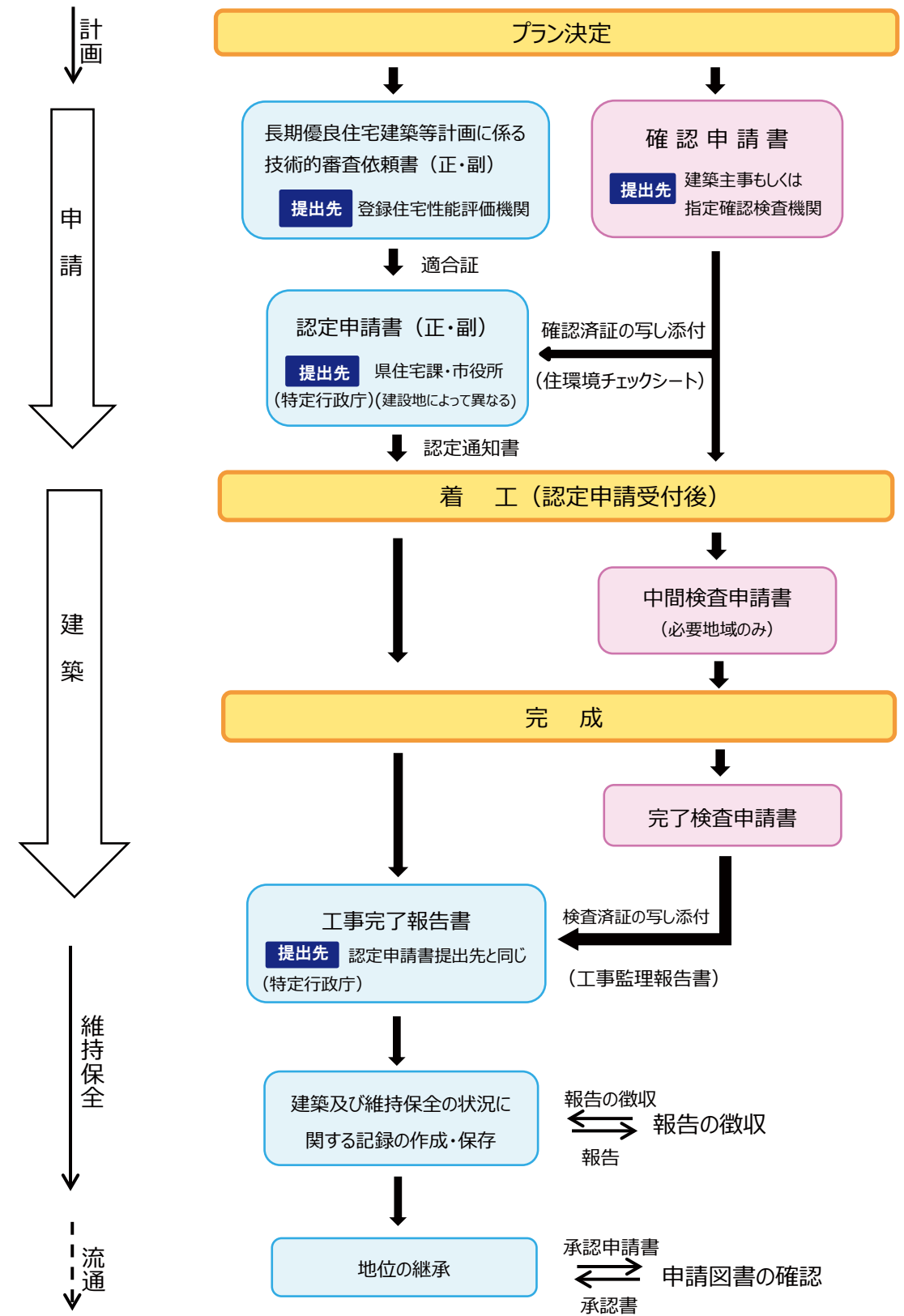
テキスト本編

- 改正省エネルギー法について 1
- 目次、本テキストの主旨、申請の流れ 2
- 長期優良住宅の認定基準の概要 3
- 認定申請書（第一面）（第二面） 4
- 認定申請書（第三面）（第四面） 5
- 委任状（認定申請用）・居住環境チェックシート 6
- 長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書・適合証 7
- 設計内容説明書（第一面）（第二面） 8
- 委任状（技術的審査用）、維持保全計画書 9
- 仕上表 10
- 敷地面積表・配置図・付近見取り図 A-01 11
- 床面積計算表（基準法・性能評価） A-02 12
- 外皮面積計算書-1（天井、床、基礎） A-03 13
- 外皮面積計算書-2（外壁、開口部） A-04 14
- 1階平面図 A-05 15
- 2階平面図 A-06 16
- 立面図 A-07 17
- 矩形図 A-08 18
- 給排水設備図 A-09 19
- 軸組計算表・軸組釣り合い計算書 A-10 20
- 耐力壁区画図 A-11 21
- 床倍率計算シート A-12 22
- 柱脚、柱頭金物図 S-01 23
- 基礎伏図 S-02 24
- 土台伏図 S-03 25
- 2階床伏図 S-04 26
- 2階小屋伏図 S-05 27
- 2階母屋伏図 S-06 28

本テキストの主旨

本テキストは長期優良住宅を建てるにあたり必要となる申請手続きの流れや性能評価の要点をまとめた資料で、平成25年省エネルギー基準に対応しています。長期優良住宅の概要を理解いただき、改正省エネルギー基準対応に活用しやすいよう要点を絞ってまとめております。各物件の条件により申請内容が異なりますので、詳細な計算が必要となる場合がございます。

申請の流れ



※工事中の変更や完了後（維持保全）に改造工事等を行う場合、特定行政庁と相談してください。
 ※変更認定申請や報告が必要となる場合があります。

長期優良住宅の認定基準の概要（7項目のチェック事項）：木造

劣化対策等級3 + 追加項目

① 外壁の軸組等、土台の防蟻・防蟻

薬剤処理または指定されている木材（桧、杉、米松など）を使用する。

② 浴室・脱衣所の防水

防水上有効な仕上げまたは浴室ユニットとする。

③ 地盤の防蟻

鉄筋コンクリート造のべた基礎などとする。

④ 基礎の高さ

地面から基礎上端までの高さを400mm以上とする。

⑤ 床下の防湿・換気

厚さ60mm以上のコンクリートなどとする。

⑥ 小屋裏の換気

必要量の給気口、排気口をとる。

⑦ 床下・小屋裏点検措置

点検口を設置し、床下空間の有効高さを330mm以上とする。

耐震等級2

極めて稀に、（数百年に一度程度）発生する地震による力の1.25倍の力に対して倒壊、崩壊等しない程度

① 壁量のチェック

- ・性能評価で定める壁量をチェックする。
- ・壁量計算のための床面積算定はバルコニーやオーバーハング部分、吹抜などを含めて計算する。
（バルコニーの場合はバルコニー面積×0.4）
- ・地震力に対する必要壁量の床面積に乗ずる係数は性能評価で定める係数を算出する。

② 壁の配置のチェック

- ・床面積の算定を性能評価で定める面積とし、係数等は建築基準法の数値で計算する。

③ 床倍率のチェック

- ・水平構面（床面等）の強さを計算する。
- ・耐力壁線（壁量が通りの床長さ×0.6かつ400cm以上）ごとに床を区画し、必要な床倍率を計算する。
- ・床、屋根に構造用合板や火打を使用し、各区画の床倍率を満たすようにする。

④ 接合部のチェック

- ・胴差、通し柱などの接合部を性能表示で定めるものとする。

⑤ 基礎、横架材のチェック

「木造住宅のための構造の安定に関する基準に基づく横架材及び基礎のスパン表」
「茨城県産スギ横架材スパン表」を利用する。

維持管理対策等級3

掃除口及び点検口が設けられている等、維持管理を容易にするための必要な対策が講じられていること。
具体的には点検口を設置し、露出配管とする。コンクリート内や地中埋め込み管となる場合は、サヤ管工法とする。

断熱等性能等級4

※新基準に改正されました

外皮性能の2つの基準に適合

① 外皮平均熱貫流率： U_A （ユー・イー）単位： $W/(m^2 \cdot K)$

住宅の内部から外壁、屋根、天井、及び開口部などを通過して外部へ逃げる熱量を外皮全体で平均した値で、熱損失の合計を外皮等面積の合計で除した値です。値が小さいほど、省エネルギー性能が高くなります。（換気による熱損失は含みません。）

$$\text{外皮平均熱貫流率 } U_A \left[W / (m^2 \cdot K) \right] = \frac{\text{外皮熱損失量 } q [W/K]}{\text{外皮等面積の合計 } \Sigma A [m^2]}$$

② 冷房期の平均日射熱取得率： η_A （イー・タ・イー）単位：—

窓から直接侵入する日射による熱と、窓以外からの日射の影響で熱伝導により侵入する熱を評価した新しい指標です。単位日射強度（水平面における全天日射量 $1 W/m^2$ のこと）当たりの日射により建物内部で取得する熱量を冷房期間で平均し、外皮等面積の合計で除した値です。

$$\text{冷房期の平均日射熱取得率 } \eta_A [-] = \frac{\text{冷房期の日射熱取得量 } m_c [W / (W/m^2)]}{\text{外皮等面積の合計 } \Sigma A [m^2]} \times 100$$

③ 結露防止対策

居住環境への配慮

- ・地区計画・景観計画・建築協定・景観協定・条例などに適合し、建築予定地の居住環境の維持に配慮されていること。
- ・住宅の建築制限がある都市計画施設等の区域外であること。

規模の基準

- ・床面積の合計が $75 m^2$ 以上であること。
- ・1つの階の床面積が $40 m^2$ 以上であること。

維持保全の方法の基準

構造耐力上主要な部分・雨水の侵入を防止する部分・給水・排水の設備について点検の時期・内容を定め、少なくとも30年以上の管理を行い、10年以内毎に点検を実施すること。

赤字の部分は
物件の情報を明記します

長期優良住宅建築等計画

認 定 申 請 書

平成 年 月 日

所管行政庁 殿



申請者の住所又は主たる事務所の所在地 茨城県〇〇市〇〇 〇〇番地
申請者の氏名又は名称 〇 〇 〇 〇 印
代表者の氏名

第1項
第2項
第3項

長期優良住宅の普及の促進に関する法律第5条 の規程のに基づき、長期優良住宅建築等

計画について認定を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

(本欄には記入しないでください)

受付欄	認定番号欄	決 裁 欄
年 月 日	年 月 日	
第 号	第 号	
係員印	係員印	

(注意)

- この様式において、「一戸建ての住宅」は、人の居住の用以外の用途に供する部分を有しないものに限り、「共同住宅等」とは、共同住宅、長屋その他の一戸建て住宅以外の住宅をいいます。
- 法第5条第2項の規定に基づく申請にあつては、分譲事業者及び譲受人の両者の氏名又は名称を記載してください。
- 申請者(法5条第2項に基づく申請にあつては、分譲事業者又は譲受人)が法人である場合には、代表者の氏名を併せて記載してください。
- 申請者の氏名(法人にあつてはその代表者の氏名)の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
- 法第5条第1項及び第3項の規定に基づく共同住宅等に係る申請にあつては、第三面を申請に係る住戸ごとに作成し、第一面、第二面及び第四面については、同時に申請する申請書のうち、いずれかの申請書について作成し、他の申請書についてはこれらの面の作成を省略することができます。
- 法第5条第2項の規定に基づく共同住宅等に係る申請にあつては、第一面及び第三面を申請に係る住戸ごとに作成し、第二面及び第四面については、同時に申請する申請書のうち、いずれかの申請書について作成し、他の申請書についてはこれらの面の作成を省略することができます。

1.建築しようとする住宅の位置、構造及び設備並びに規模に関する事項

(建築物に関する事項)

【1. 地名地番】	茨城県〇〇市〇〇 〇〇番地
【2. 敷地面積】	240.2 m ²
【3. 建築面積】	66.24 m ²
【4. 床面積の合計】	118.4 m ²
【5. 建て方】	<input checked="" type="checkbox"/> 一戸建ての住宅 <input type="checkbox"/> 共同住宅等 【一戸建ての住宅の場合:各階の床面積】 1 階 65.41 m ² 2 階 52.99 m ² 【共同住宅等の場合:住戸の数】 建築物全体 戸 認定申請対象住戸 戸
【6. 建築物の高さ等】	【最高の高さ】 8.03 m 【最高の軒の高さ】 6.251 m 【階数】 (地上) 2 階 (地下) 階
【7. 構造】	木造 一部 造
【8. 長期使用構造等に係る構造及び設備の概要】	別添設計内容説明書による
【9. 確認の特例】	法第6条第2項の規定による申出の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有

(注意)

- 【5. 建て方】の欄は、該当するチェックボックスに・を入れてください。
- 【9. 確認の特例】の欄は、認定の申請に併せて建築基準法(昭和25年法律第201号)第6条第1項の規定による確認申請書を提出して適合審査を受けよう申し出る場合においては「有」に、申し出ない場合においては「無」に・を入れてください。

(第三面)

赤字の部分は
物件の情報を明記します

(申請に係る住戸に関する事項)

【1. 住戸の番号】		
【2. 住戸の存する階】		階
【3. 専用部分の床面積】		m ²
【4. 当該住戸への経路】		
【共用階段】	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有
【共用廊下】	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有
【エレベーター】	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有

(注意)

- この面は、共同住宅等に係る申請の場合に作成してください。
- 住戸の階数が二以上である場合には、【3. 専用部分の床面積】に各階ごとの床面積を併せて記載してください。
- 【4. 当該住戸への経路】の欄は該当するチェックボックスに・を入れてください。

※第3面は、一戸建ての場合、提出不要です

(第四面: 法第5条第1項又は第2項の規定に基づく申請の場合)

2. 建築後の住宅の維持保全の方法及び期間

維持保全の方法	〇〇の点検・保証システムを実施 「別添の維持保全計画書及びメンテナンスプログラムによる」
維持保全法の期間	: 30年
定期点検等実施予定者:	〇 〇
住所	: 〇〇県〇〇市〇〇 〇〇番地 TEL: - -

3. 住宅の建築及び維持保全に係る資金計画

①建築に係る資金計画

建築に要する費用	2,000万円
----------	---------

②維持保全に係る資金計画

修繕費用として年6万円の積み立てをおこなう。

(注意)

- ①欄には、建築に要する費用の概算額を記載してください。
- ②欄には、住宅の修繕に要する費用の年間積み立て予定額を記載してください。
- 共同住宅等に係る申請である場合でも、①、②欄とも、一棟にかかる費用を記載してください。

4. 法第5条第2項の規定による認定を受けようとする住宅の維持保全を行う者

①維持保全を建物の区分所有等に関する法律(昭和37年法律第69号)第3条若しくは第65条に規定する団体又は同法第47条第1項に規定する法人が行う場合、当該団体又は法人の名称

なし

②譲受人が建築後の住宅の維持保全を他の者と共同して行う場合、当該他の者の氏名又は名称

なし

5. 住宅の建築の実施時期

[建築に関する工事の着手の予定年月日]	平成	年	〇	月	〇	日
[建築に関する工事の完了の予定年月日]	平成	年	〇	月	〇	日

委任状

認定申請書提出のための
委任状です
書式は特に決まっておりません

私は、○○○○を代理人と定め下記に
関する権限を委任します。

記

長期優良住宅の普及の促進に関する法律 5 条による認定申請に関する手続き、
提出書類、図書の作成、訂正及び交付される文章の受領

物件名 ○○○○様邸新築工事
敷地の地名地番 茨城県○○市○○ ○○番地

平成 年 月 日

住所 茨城県○○市○○ ○○番地
氏名 ○○○○

※県・住宅課へ提出する時の書式です

居住環境チェックシート

(H26. 4. 1 改正版)

居住環境基準で定められた事項については、認定申請前に当該申請内容が各基準を満足している事の確認を申請者（申請者に委任された設計者を含む。）自らが行ってください。
確認後は本事前確認書に必要事項を記入のうえ、地区計画・景観計画区域内の場合、市町村担当課において当該計画に適合している旨の確認を行い、都市計画施設等区域内の場合、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第 6 条第 1 項第 3 号の規定による居住環境の維持及び向上への配慮に関する基準の 3. ただし書による場合に該当するか確認してください。

【申請建築物概要】

申請者氏名	○○○○
建築物の地名地番	茨城県○○市○○ ○○番地
区域区分	市街化区域・市街化調整区域・非線引き・準都市計画区域・都市計画区域外
用途地域	一低・二低・一中高・二中高・一住・二住・準住・近商・商業・準工業・工業・工専・無指定

【事前確認事項】

都市計画道路（都計法53条）等有る場合は、認定出来ない場合がありますので
早めに調査・相談して下さい

1. 地区計画等に関する事項

確認事項	該当の有無	地区名等	確認先	確認日等
地区計画	<input type="checkbox"/> 有	_____	_____課	平成 年 月 日
	<input type="checkbox"/> 無	_____地区計画	担当_____	

※適合証等の写しを添付してください。
(副本に原本を添付してください。)

2. 景観計画に関する事項

確認事項	該当の有無	地区名等	確認先	確認日等
景観計画	<input type="checkbox"/> 有	_____市景観計画	_____課	平成 年 月 日
	<input type="checkbox"/> 無	_____地区	担当_____	
	<input type="checkbox"/> 届出対象外			

※適合証等の写しを添付してください。
(副本に原本を添付してください。)

3. 都市計画施設等の区域内に関する事項

確認事項	該当の有無	概要	確認先	確認日等
土地区画整理促進区域 その他の促進区域	<input type="checkbox"/> 有	_____	_____課	平成 年 月 日
	<input type="checkbox"/> 無	_____促進区域	担当_____	
都市計画道路	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		_____課 担当_____	平成 年 月 日
都市計画施設 (都市計画道路を除く)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		_____課 担当_____	平成 年 月 日
土地区画整理事業 その他の市街地開発事業 (市街地開発事業等 予定区域を含む)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	_____事業 <input type="checkbox"/> 換地処分済 (換地日 年 月 日)	_____課 担当_____	平成 年 月 日
改良地区	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		_____課 担当_____	平成 年 月 日

※計画地が茨城町「桜の郷」である場合は、都市計画法第 53 条の許可書の写しを添付してください。

※土地区画整理事業区域であり、換地処分前である場合は土地区画整理事業法第 76 条の許可証の写しを添付してください。
(副本に原本を添付してください。)

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査依頼書

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査

適合証

(申請先：審査機関名) 様

赤字の部分は
物件の情報を明記します

平成 年 月 日

依頼者の住所又は
主たる事務所の所在地
依頼者の氏名又は名称 ○ ○ ○ ○ 印

代理者の住所又は
主たる事務所の所在地
代理者の氏名又は名称 ○ ○ ○ ○ 印

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程に基づき、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準のうち、以下に掲げる基準への適合性について技術的審査を依頼します。この依頼書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

記

【技術的審査を依頼する認定基準の区分】

- 法第6条第1項第1号関係（長期使用構造等）
■ 法第2条第4項第1号イ関係（構造の腐食、腐朽及び摩損の防止）
■ 法第2条第4項第1号ロ関係（地震に対する安全性の確保）
(免震建築物又は耐震等級3に係る適合審査を受けようとする場合)
□免震建築物 □耐震等級3 ← 耐震等級3の審査を受ける場合チェックして下さい
■ 法第2条第4項第2号関係（構造及び設備の変更を容易にするための措置）
■ 法第2条第4項第3号関係（維持保全を容易にするための措置）
■ 法第2条第4項第4号関係（高齢者の利用上の利便性及び安全性）
■ 法第2条第4項第4号関係（エネルギーの使用の効率性）
■ 法第6条第1項第2号関係（住宅の規模）
□ 法第6条第1項第3号関係（居住環境の維持及び向上への配慮）
■ 法第6条第1項第4号イ及びロ又は同項第5号イ関係（建築後の住宅の維持保全）
■ 法第6条第1項第4号ハ又は同項第5号ロ関係（資金計画）

【設計住宅性能評価申請の有無】 □有（□同一の機関 □他機関） ■無

【認定申請先の所管行政庁名】 茨城県（特定行政庁以外の市町村の場合）

【認定申請予定日】 平成○○年○月○○日

【住宅の位置】 茨城県○○市○○ ○○番地

【住宅又は建築物の名称】 ○○ ○○ 様邸新築工事

【住宅の建て方】 一戸建ての住宅（もしくは共同住宅など）

Table with columns for receipt status and fee information, including fields for date, number, and staff stamp.

(依頼者の氏名又は名称
○○ ○○ 殿

技術的審査に適合すると
審査機関より発行されます。

審査機関名 印

長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程に基づき、長期優良住宅の普及の促進に関する法律第6条第1項の認定基準のうち、以下に掲げる基準に適合していることを証します。

記

- 1. 住宅の位置 茨城県○○市○○ ○○番地
2. 住宅又は建築物の名称 ○○ ○○ 様邸新築工事
3. 住宅の建て方 一戸建ての住宅（もしくは共同住宅など）
4. 認定申請先の所管行政庁名 茨城県（特定行政庁以外の市町村の場合）
5. 適合することを確認した認定基準の区分
■ 法第6条第1項第1号関係（長期使用構造等）
■ 法第2条第4項第1号イ関係（構造の腐食、腐朽及び摩損の防止）
■ 法第2条第4項第1号ロ関係（地震に対する安全性の確保）
(免震建築物又は耐震等級3に適合する場合 □免震建築物 □耐震等級3)
■ 法第2条第4項第2号関係（構造及び設備の変更を容易にするための措置）
■ 法第2条第4項第3号関係（維持保全を容易にするための措置）
■ 法第2条第4項第4号関係（高齢者の利用上の利便性及び安全性）
■ 法第2条第4項第4号関係（エネルギーの使用の効率性）
■ 法第6条第1項第2号関係（住宅の規模）
□ 法第6条第1項第3号関係（居住環境の維持及び向上への配慮）
■ 法第6条第1項第4号イ及びロ又は同項第5号イ関係（建築後の住宅の維持保全）
■ 法第6条第1項第4号ハ又は同項第5号ロ関係（資金計画）

Table for technical review information including date, date of application, date of certificate delivery, certificate number, and reviewer name.

設計内容でチェックした事は
すべて図書に記載します

設計内容説明書(長期優良住宅)【一戸建ての住宅用(木造軸組・枠組壁工法)】

認定事項等	確認項目	設計内容説明欄		設計内容 確認欄
		項目	設計内容	
1 構造躯体等の劣化対策				
劣化対策等級 (構造躯体等)	認定書等	<input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用 <input checked="" type="checkbox"/> 外壁通気構造等 (真壁構造で90cm以上の軒の出がある場合を含む) 柱 <input type="checkbox"/> 製材、集成材等+薬剤処理(現場処理可) <input type="checkbox"/> 製材、集成材等+小径13.5cm <input checked="" type="checkbox"/> 製材、集成材等+耐久性区分D1+小径12.0cm以上 <input type="checkbox"/> 耐久性区分D1のうち、ヒノキ等の高耐久樹種 軸材・ 下地材 <input type="checkbox"/> 製材、集成材等又は構造用合板等+薬剤処理(現場処理可) <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性区分D1のうち、ヒノキ等の高耐久樹種 合板 <input type="checkbox"/> 構造用合板等+薬剤処理(現場処理可)	<input type="checkbox"/> 仕上表 <input checked="" type="checkbox"/> 仕様書 <input type="checkbox"/> 立面図 <input checked="" type="checkbox"/> 矩計図 <input checked="" type="checkbox"/> 伏図等	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
	外壁の軸組等 (地面から1m)			
	土台	防 腐 ・ 防 蟻 処 理 <input checked="" type="checkbox"/> K3以上の薬剤処理(工場処理) <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 土台に接する外壁下端水切り <input type="checkbox"/> K3以上の薬剤処理(工場処理) <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性区分D1のうち、ヒノキ等の高耐久樹種 <input type="checkbox"/> その他		
	浴室・脱衣室 の 防 水	防水上の措置 浴室 <input checked="" type="checkbox"/> 浴室ユニット <input type="checkbox"/> 外壁軸組等の防腐措置等 <input type="checkbox"/> その他 脱衣室 <input checked="" type="checkbox"/> 防水上有効な仕上げ <input type="checkbox"/> 外壁軸組等の防腐措置等 <input type="checkbox"/> その他		
	地 盤	防 蟻 措 置 防蟻措置(<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 対象区域外) <input checked="" type="checkbox"/> べた基礎等 <input type="checkbox"/> 土壌処理 <input type="checkbox"/> その他		
	基 礎 高 さ	基 礎 高 さ <input checked="" type="checkbox"/> 地面から基礎上端又は土台下端までの高さが400mm以上		
	床 下 防 湿 措 置 等	床下地盤面の 防湿措置・床下 換 気 措 置 <input checked="" type="checkbox"/> 防湿方法 (<input checked="" type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> 防湿フィルム <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 換気措置 (<input type="checkbox"/> 換気口 <input checked="" type="checkbox"/> ねこ土台 <input type="checkbox"/> その他) <input checked="" type="checkbox"/> 基礎断熱工法 ※一部基礎断熱工法の場合もチェック		
	小 屋 裏 換 気 の 措 置	小屋裏換気 の 措 置 <input checked="" type="checkbox"/> 小屋裏有 (換気措置による) ※いずれにも該当する場合は <input type="checkbox"/> 小屋裏無 (屋根断熱工法・その他の措置) ※それぞれにチェック		
	点 検 措 置	床 下 空 間 <input checked="" type="checkbox"/> 床下空間ごとに点検口を設置 小 屋 裏 空 間 <input checked="" type="checkbox"/> 小屋裏空間ごとに点検口を設置 床 下 空 間 の 有 効 高 さ <input checked="" type="checkbox"/> 床下空間の有効高さ330mm以上点検に支障のない範囲で 上記寸法に満たない部分の有無 (<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有)		
2 耐震性				
耐震等級 (倒壊等防止)	認定書等	<input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用 <input checked="" type="checkbox"/> 壁量計算等 横架材 <input checked="" type="checkbox"/> 許容応力度計算 <input checked="" type="checkbox"/> スパン表 基礎 <input type="checkbox"/> 許容応力度計算 <input checked="" type="checkbox"/> スパン表	<input type="checkbox"/> 仕様書 <input checked="" type="checkbox"/> 伏図等 <input checked="" type="checkbox"/> 計算書 <input type="checkbox"/> 認定書(基準法)	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 等級 3 <input checked="" type="checkbox"/> 等級 2	構造躯体 (1-1)	<input type="checkbox"/> 許容応力度計算 <input type="checkbox"/> 偏心率0.3以下 ※軸組の場合に記入 <input type="checkbox"/> 許容応力度計算+偏心率の検討(告1540号第10第1号) <input type="checkbox"/> 許容応力度計算(告1540号第10第2号) ※枠組の場合に記入 <input type="checkbox"/> その他の計算方法 <input type="checkbox"/> 大臣認定書(基準法)の活用		
	限界耐力計算	<input type="checkbox"/> 限界耐力計算による <input type="checkbox"/> 各階の安全限界変形の基準に適合		
その他(地震 に対する構造 躯体の倒壊等 防止)	免 震	<input type="checkbox"/> 平成12年建設省告示第2009号第1第3号による免震建築物 <input type="checkbox"/> 大臣認定書の活用 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 免震層及び免震材料の維持管理に関する図書の作成		

設計内容記載図書に
チェックを入れ図面に
明記します

外皮計算で適合が
必要な基準です

設計内容説明書(長期優良住宅)【一戸建ての住宅用(木造軸組・枠組壁工法・鉄骨造)】

認定事項等	確認項目	設計内容説明欄		設計内容 確認欄
		項目	設計内容	
4 維持管理・更新の容易性				
維持管理対策 等級 (専用配管) (ガス管を除く)	専用配管	<input checked="" type="checkbox"/> 給水管、排水管、給湯管のコンクリート内への埋め込み 無し(コンクリートブロックを含む) <input checked="" type="checkbox"/> 給水管、排水管及び給湯管上のコンクリート打設無し <input type="checkbox"/> 条例等による適用外の地域	<input type="checkbox"/> 仕上表 <input checked="" type="checkbox"/> 配置図 <input checked="" type="checkbox"/> 平面図 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎伏図 <input checked="" type="checkbox"/> 設備図 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
	地中埋設管	<input checked="" type="checkbox"/> 排水管の内面が平滑である <input checked="" type="checkbox"/> たわみ、抜け等が生じないよう設置		
	排水管の 性 状 等	<input checked="" type="checkbox"/> 便所、その他水廻りに必要な清掃措置の確保		
	専用排水管	<input checked="" type="checkbox"/> 主要接合部等の点検措置等の確保		
	配管点検口	<input checked="" type="checkbox"/> 主要接合部等の点検措置		
6 省エネルギー対策				
断熱等性能 等級 (5)地域	認定書等	<input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用(住宅) <input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用(住宅の部分) <input checked="" type="checkbox"/> 建築主判断基準 <input type="checkbox"/> 設計・施工指針の本則(簡易計算法) <input type="checkbox"/> 設計・施工指針の附則(条件付き外皮仕様)	<input checked="" type="checkbox"/> 仕上表 <input checked="" type="checkbox"/> 平面図 <input checked="" type="checkbox"/> 立面図 <input checked="" type="checkbox"/> 矩計図 <input type="checkbox"/> 建具表 <input checked="" type="checkbox"/> 計算書 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
	適用する基準	<input checked="" type="checkbox"/> 外皮平均熱貫流率UAの基準に適合 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房期の平均日射熱取得率ηAの基準に適合		
	建築主基準 又は設計施工 指針の本則を 適用する場合	<input type="checkbox"/> 開口部比率が基準に適合 <input type="checkbox"/> 開口部比率の区分 <input type="checkbox"/> 区分(い) <input type="checkbox"/> 区分(ろ) <input type="checkbox"/> 区分(は) <input type="checkbox"/> 緩和措置あり <input type="checkbox"/> 窓の断熱(2%緩和) <input type="checkbox"/> 窓の日射(4%緩和)		
	設計施工指針 の附則を適用 する場合	<input type="checkbox"/> 熱貫流率基準を適用 <input type="checkbox"/> 熱抵抗値基準を適用		
	結露防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> 繊維系断熱材 <input checked="" type="checkbox"/> 防湿層の設置 <input type="checkbox"/> 防湿層の設置有り <input type="checkbox"/> 除外規定適用(添付図書に内容を記載) <input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用(表紙に記入) <input checked="" type="checkbox"/> 通気層の設置有り(繊維系断熱材を使用する場合は防風層設置) <input type="checkbox"/> 除外規定適用(添付図書に内容を記載) <input type="checkbox"/> 認定書等(品確法・長期優良)の活用		
その他認定基準				
住宅の規模	住宅の面積	<input checked="" type="checkbox"/> 住宅の専有面積が75㎡以上(所管行政庁が別に定める場合を含む) 40㎡以上ある階 ※①-②=40㎡以上必要 (1階) (65.41㎡) ① の内階段部分面積 (4.14㎡) ②	<input checked="" type="checkbox"/> 面積表 <input type="checkbox"/> 平面図 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
維持保全の 方法	維持保全の 期間等	<input checked="" type="checkbox"/> 維持保全の期間が30年以上 <input checked="" type="checkbox"/> その他の基準への適合	<input checked="" type="checkbox"/> 申請書 <input checked="" type="checkbox"/> 計画書 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
資金計画	費用の 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 建築に要する費用の設定 <input checked="" type="checkbox"/> 維持保全に要する費用の設定	<input checked="" type="checkbox"/> 申請書 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>
居住環境 への配慮	地区計画等 への適合	<input checked="" type="checkbox"/> 地区計画等、景観計画、建築協定、条例、その他地方公共団体が 自主的に定める要綱等のうち、所管行政庁が選定・公表したものに 適合 <input type="checkbox"/> 選定・公表したものに該当なし <input type="checkbox"/> 選定・公表なし <input checked="" type="checkbox"/> 住宅の建築制限がある都市計画施設等の区域として、所管行政庁 が選定・公表したものの区域外 <input type="checkbox"/> 選定・公表なし <input type="checkbox"/> (<input checked="" type="checkbox"/> 別添 <input type="checkbox"/>	審査員 記入欄 <input type="checkbox"/>

技術的審査依頼のための
委任状です

委任状

私は ○○ ○○ を代理人と定め

下記に関する権限を委任します。

記

・長期優良住宅建築等計画に係る技術的審査業務規程第5条第1項による技術的審査の依頼業務に関する手続き、提出図書の作成、訂正及び登録住宅性能評価機関から交付される文書の受領

物件名 ○○ ○○ 様邸新築工事

敷地の地名地番 茨城県○○市○○ ○○番地

平成 年 月 日

住所 茨城県○○市○○ ○○番地

氏名 ○○ ○○

印

参考：維持保全の方法（維持保全計画）の例（一戸建て住宅）

維持保全計画（30年間）

点検部位		主な点検項目	点検の時期 (建築工事完了後より)	定期的な手入れ等	更新・取替の時期・内容	
構造 躯体	基礎	コンクリート 基礎立上り	ひび割れ 欠損 沈下 換気口のふさがり さび 蟻道、等	5・10・15・20・25年 ★		建替え時に更新
	土台	土台	基礎からのずれ 浮き 断面欠損 腐朽 蟻害	5・10・15・20・25年 ★	5年で防蟻・ 防蟻処理	建替え時に更新
	床組	大引・床束 根太	腐朽 蟻害 傾斜 たわみ 床鳴 振動等	5・10・15・20(取替)・25 年	5年で防蟻・ 防蟻処理	20年で全面取替を検討
	軸組	柱・間柱 筋交・胴差	傾斜 断面欠損 腐朽 蟻害等	10・20年 ★		建替え時に更新
	小屋組	垂木・母屋 棟木・小屋束	雨漏り等のあと 小屋組みの接合部の割れ	10・20年 ★		建替え時に更新
屋根・ 外壁・ 開口部 等	屋根	瓦葺	ずれ はがれ 浮き われ 雨漏 変形 等	5・10・15・20(葺替)・25 年 ★		20年で全面葺替を検討
	外壁	サイディング壁 (窯業系)	割れ 欠損 剥がれ さび 傷 シーリング材の破断等	3・6・12・15(全面補修)・ 18・21・24・27年 ★	3年でトップコート 吹替え	15年で全面補修を検討
	雨樋	雨樋	破損 詰まり 剥がれ ひび、軒樋の垂れ下がり	3・7(取替)・10・14(取 替)・17・21(取替)24年		7年で全面取替を検討
	軒裏	軒裏天井	腐朽 雨漏り はがれ たわみ ひび割れ	3・6・12・15(取替)・18・ 21・24・27年★		15年で全面取替を検討
	開口部	屋外に面する 開口部	建具周辺の隙間 建具の開閉不良 等	5・10・15・20(取替)・25 年 ★		20年で全面取替を検討
設備	配管設備	給水管	漏水 赤水 給水の流量の不足など	5・10・15・20(取替)・25 年	水漏れは ただちに補修	20年で全面取替を検討
		排水管	漏水 排水の滞留	5・10・15・20(取替)・25 年	水漏れは ただちに補修	20年で全面取替を検討

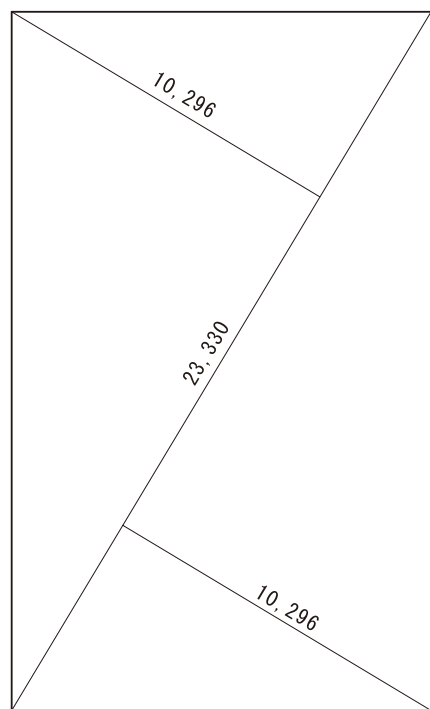
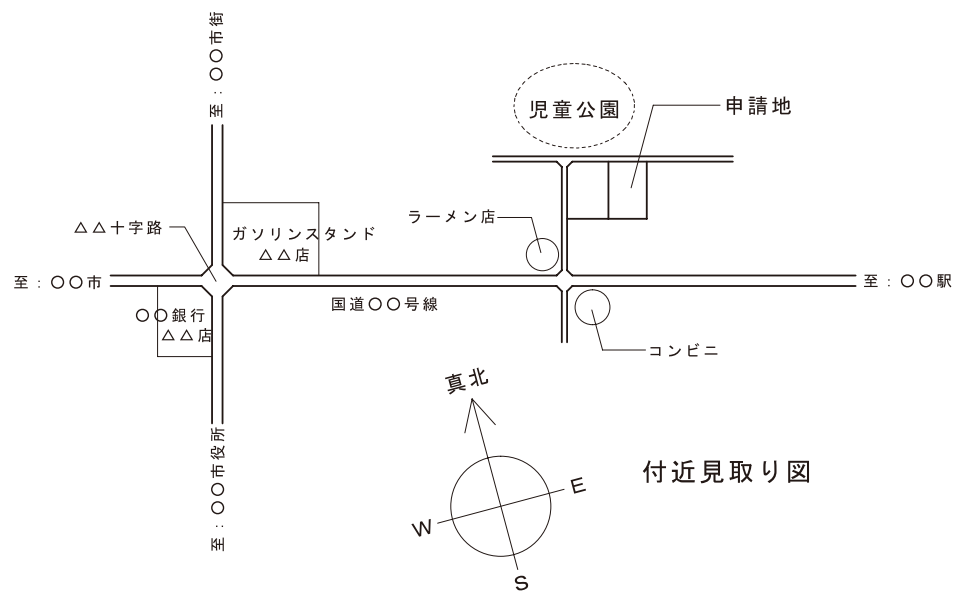
留意事項等

- ★は地震や台風の後、当該等点検時期にもかかわらず臨時点検を行なうものとする
- 各点検において、劣化の状況に応じて適宜維持保全の方法について見直すものとする
- 長期優良住宅建築等計画に変更があった場合、必要に応じて、維持保全の方法の変更を行なうものとする
- 各点検の結果を踏まえ、必要に応じて、地域、修繕または改良を行うものとする。

※維持保全計画の例は、特定の仕様の住宅を想定したもので、策定にあたってはそれぞれの住宅のそれぞれの仕様や環境条件等に応じて、項目、時期等の記載事項を決定する必要がある。

参考例です

概要・構造				内部仕上2													
工事名称	工事名称	〇〇邸新築工事		建築主													
建築地	茨城県〇〇市			住所													
主要用途	専用住宅			電話番号													
工事種別	新築			工期	着工 27 年 月 ~ 竣工 27 年 月												
敷地状況	敷地面積	240.20 m ² 72.66 坪		建蔽率	基準建蔽率 50 %												
		実測 240.20 m ² 72.66 坪		容積率	基準容積率 % 全面道路幅員×0.6 % 該当容積率 100 %												
都市計画法	用途地域	第一種低層住居専用地域			調整区域												
建築基準法	都市計画	都市計画区域内			防火地域	無指定											
地域制約	その他	土地区画整理施工区	外		都市計画道路	外											
		土地区画法76条申請	外		建築協定	無											
		高度地区	その他		壁面後退	無											
		風致地区	外		日陰規制	無											
地区計画	無		敷地認定	無													
構造・規模	構造	木造軸組		階数	地上2階												
	基礎	ベタ基礎		最高高さ	GL+8.030 最高軒高 GL+6.251												
主要構造木材	土台	桧 120×120(D1特定樹種)			屋根	ガルバリウム鋼板縦葺き											
	大引き	桧 120×120 (D1特定樹種)			外壁:上部	鉄板系サイディング(ガルバリウム鋼板)											
	管柱	杉KD 120×120 (D1樹種)			外壁:下部	窯業系サイディング t=14mm											
	通し柱	杉KD 200×200、120×120 (D1樹種)			バルコニー部分	窯業系サイディング t=14mm(木目調)											
	間柱(外周)	1F部分は桧材			玄関ドア	金属製高断熱構造 K2仕様 熱逓流率2.33W/m ² ・K 扉:断熱材充填フラッシュ構造 枠:熱遮断構造											
	間柱(中通り)				サッシ	アルミ樹脂複合サッシ											
	梁・棟木	杉 梁幅120 梁背はスパン表による			ガラス	Low-E 複層ガラス 日射取得型(断熱タイプ) 一部:日射遮熱型(遮熱タイプ)											
	母屋	杉 105×105															
	垂木	杉 45×90															
	筋違	90×45 (シングル) 1F外周部分は桧材使用															
	筋違	90×45 (ダブル) 1F外周部分は桧材使用															
	面材耐力壁	パルプケイ酸混入セメント板9mm:外周部 大臣認定 FRM-〇〇〇〇															
	胴ぶち	1F部分(GL+1.0m)は桧材															
	建築面積				延床面積												
申請部分	申請以外の部分	合計		申請部分	申請以外の部分	合計											
66.24 m ²		m ²	66.24 m ²	1階	65.41 m ²	m ²	65.41 m ²										
20.04 坪		坪	20.04 坪	2階	52.99 m ²	m ²	52.99 m ²										
				合計	118.40 m ²	m ²	118.40 m ²										
建蔽率 66.24 m ² / 240.20 m ² = 27.58 %				容積率 118.40 m ² / 240.20 m ² = 49.29 %													
ポーチ・バルコニー 4.47 m ²				容積率 49.29 % ≤ 100 % OK													
角地適用 有 (無)																	
27.58 % ≤ 50 % OK																	
断熱材仕様																	
屋根																	
天井	一般部分	高性能グラスウール14K 付属防湿フィルム λ=0.038 t=155mm															
外壁	一般部分	高性能グラスウール14K 付属防湿フィルム λ=0.038 t=85mm															
床:その他の床	一般床下部分	A種押出し法ポリスチレンフォーム1種B λ=0.04 t=100mm															
床:外気に接する床	ポーチ上部	高性能グラスウール14K 付属防湿フィルム λ=0.038 t=85mm															
基礎立上がり:外周	A種押出し法ポリスチレンフォーム3種B λ=0.028 50mm																
基礎立上がり:内周	A種押出し法ポリスチレンフォーム3種B λ=0.028 50mm																
				承認	設計	担当											
							工事名称	〇〇邸新築工事									
							図面名称	仕上表									
室名	床仕上材	床下地材	巾木	壁仕上材	壁下地材	天井仕上材	天井下地材	廻縁									
1 玄関ポーチ	300角タイル t=9	モルタル	床同材	外壁に準ずる		外壁に準ずる											
2 玄関・ホール	300角タイル t=9 桧無垢板 t=27	モルタル 合板 t=24	桧無垢	クロス貼	P.B t=12.5	クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
3 リビング・ダイニング	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
4 キッチン	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
5 和室6帖	タタミ 本床	合板 t=24	タタミ寄せ	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	杉無垢 45×54									
押入	合板12	合板 t=24	雑巾摺り	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5										
板の間	桧無垢板 t=27	合板 t=24	雑巾摺り	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	杉無垢									
浴室	UB仕様 JIS A 4416	防水合板t=24	桧無垢	UB仕様	外皮部分 P.Bt=12.5	UB仕様											
7 脱衣・洗面室	クッションフロアー 耐水合板捨て貼り12×2	耐水合板t=24	桧無垢	ビニールクロス貼	防水PB 12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
8 1階化粧室	クッションフロアー 耐水合板捨て貼り12×2	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
9 階段ホール	集成階段板 t=30		桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
10 階段下収納	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
11 2階ホール	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
12 洋室	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
13 納戸	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
14 各収納	桧無垢板 t=27	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	P.B t=12.5	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
16 2階化粧室	クッションフロアー 耐水合板捨て貼り12×2	合板 t=24	桧無垢	珪藻土クロス貼	合板 t=9	珪藻土クロス貼	P.B t=9.5	桧無垢									
19 バルコニー	FRP防水2層の上、ウレタン塗装	合板 t=12 2重貼		外壁に準ずる 防水立上り 250以上 開口部分 200以上確保		外壁に準ずる											

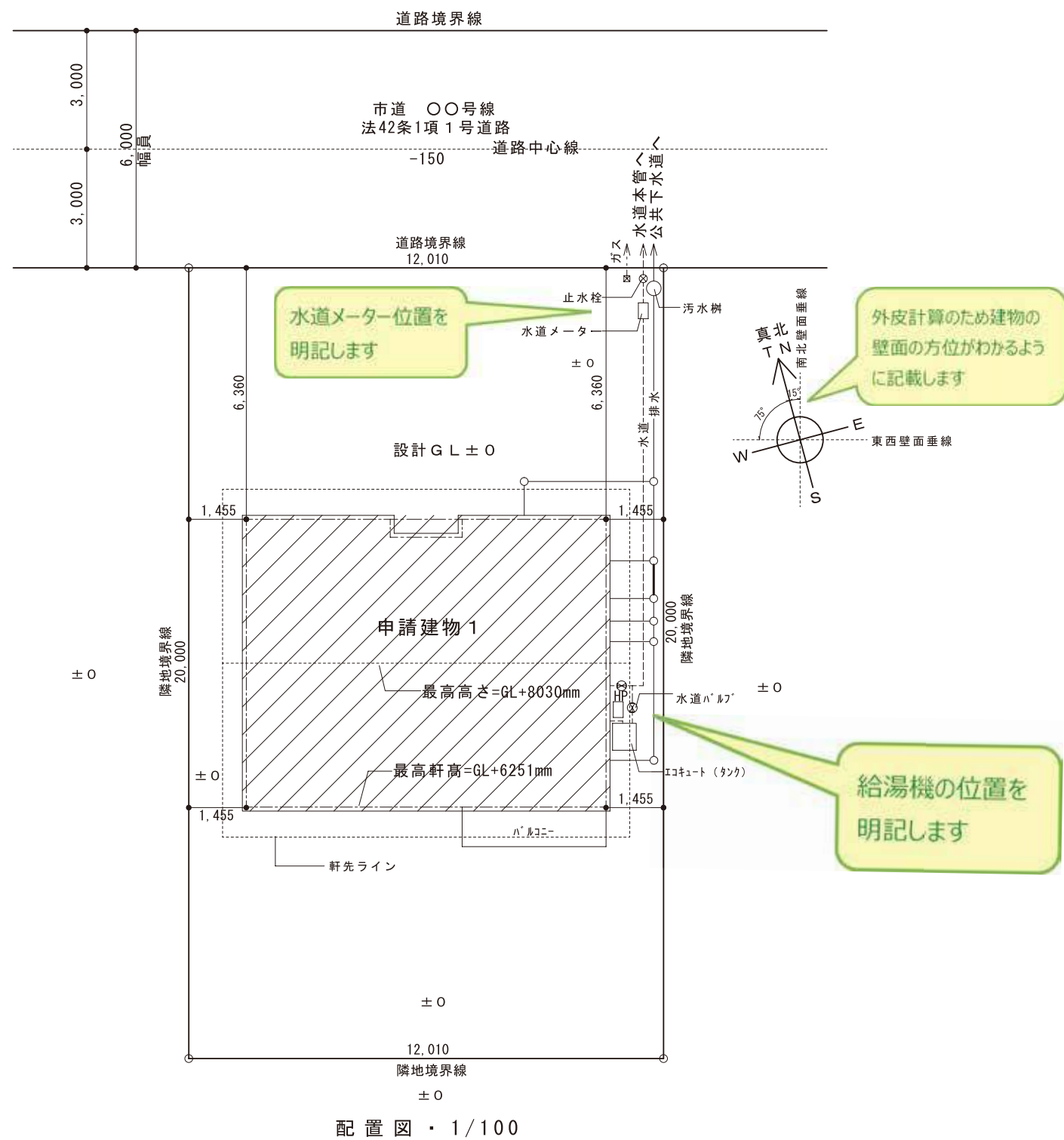


求積図・1/150

付近見取り図

求積表

符号	底辺 m	高さ m	倍面積
S1	23.330	10.296	240.2057
S2	23.330	10.296	240.2057
倍面積合計 m ²			480.4114
面積合計			240.2057
地籍			240.20m ²



配置図・1/100

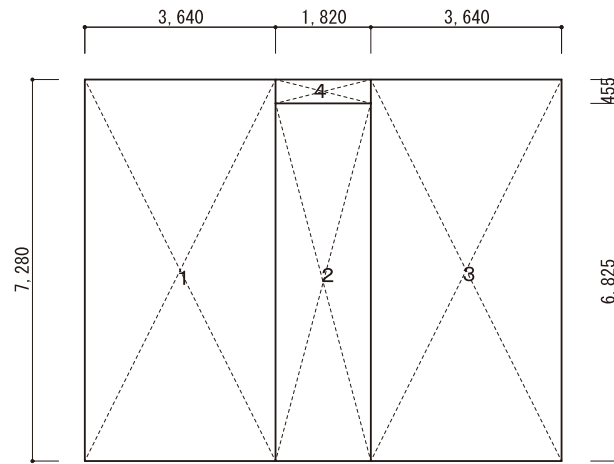
水道メーター位置を明記します

外皮計算のため建物の壁面の方位がわかるように記載します

給湯機の位置を明記します

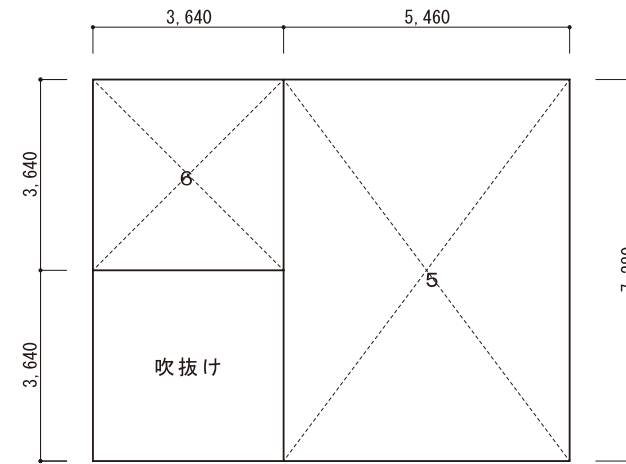
承認	設計	担当	縮尺	A2:1/100 A3:1/70	工事名称	〇〇邸新築工事
					図面名称	敷地面積表・配置図・付近見取り図

建築基準法の床面積計算



1階求積図 S=1/100

記号	面積計算式 (m)	小計 (㎡)
1	3,640 × 7,280	26,499,200
2	1,820 × 6,825	12,421,500
3	3,640 × 7,280	26,499,200
4	1,820 × 0,455	0,828,100
5	5,460 × 7,280	39,748,800
6	3,640 × 3,640	13,249,600



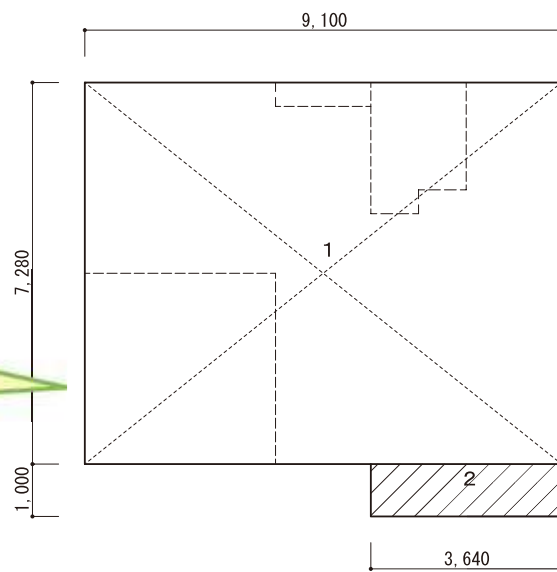
2階求積図 S=1/100

	記号	計 (㎡)	計 (坪)
建築面積	1+2+3+4	66.24	20.03
1階床面積	1+2+3	65.41	19.78
2階床面積	5+6	52.99	16.02
延床面積		118.40	35.81

長期優良住宅（性能評価：耐震等級）の壁量計算用床面積計算

階段面積（長期優良住宅）

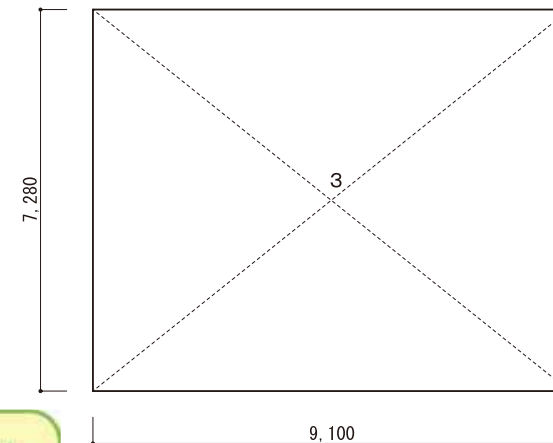
バルコニー・オーバーハング部
吹抜などを面積に入れて計算します



1階壁量計算用求積図 S=1/100

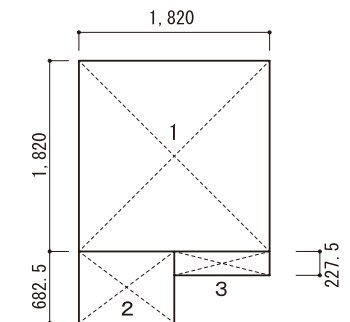
記号	面積計算式 (m)	小計 (㎡)
1	9,100 × 7,280	66,248
2	3,640 × 1,000 × 0.4	1,456
3	9,100 × 7,280	66,248

跳ね出しバルコニーは
面積に0.4を掛けて計
上します



2階壁量計算用求積図 S=1/100

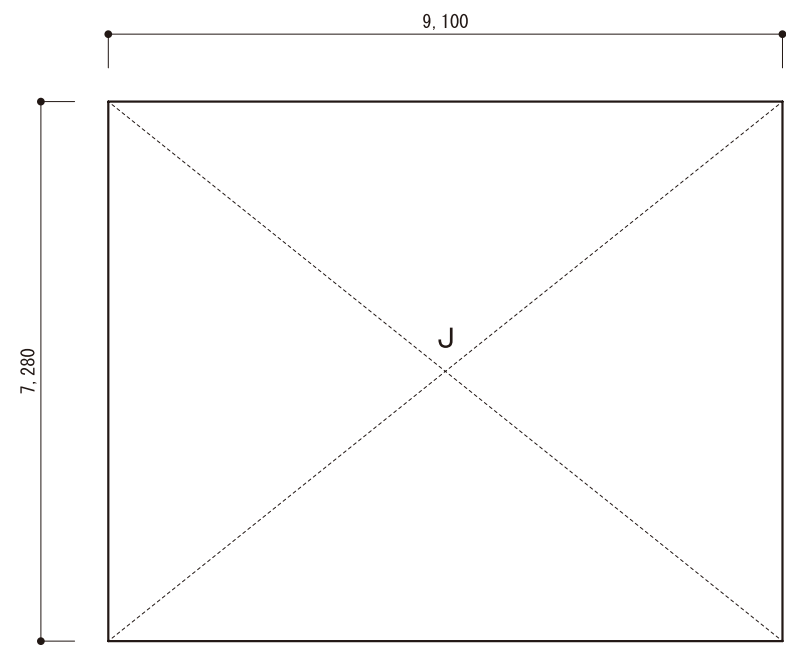
	記号	計 (㎡)
1階床面積 S 1	1~2	67.71
2階床面積 S 2	3	66.25



1	1.82 × 1.82 =	3.312400
2	0.91 × 0.6825 =	0.621075
3	0.91 × 0.2275 =	0.207025
計		4.140500
階段面積		4.14㎡

承認	設計	担当	縮尺	工事名称	〇〇〇〇邸 新築工事
			設計年月日	図面名称	床面積計算表（基準法・性能評価）

✓ 改正省エネ法で必要となる外皮計算のための面積表です



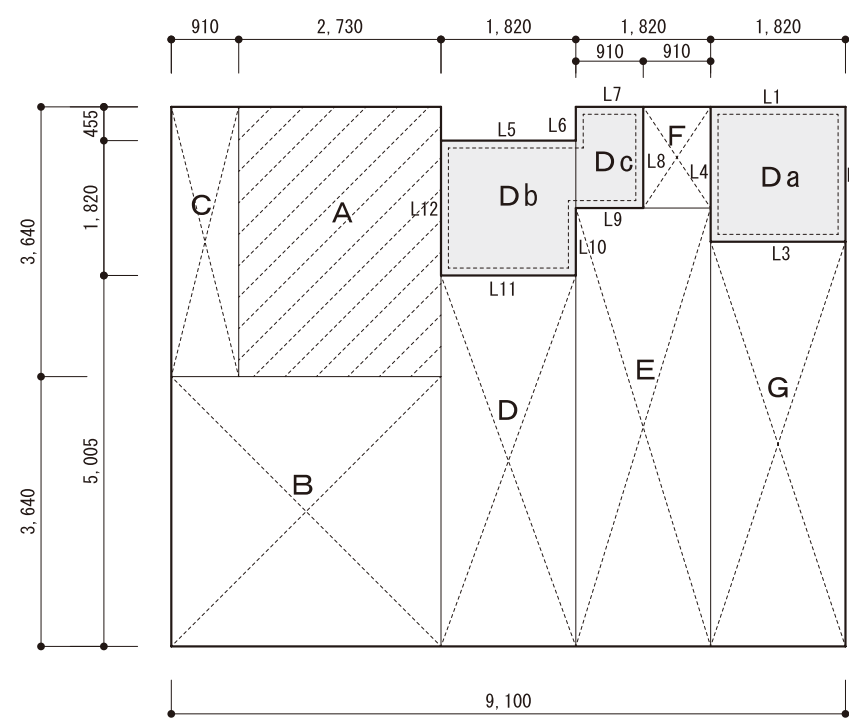
2階天井面積求積図S=1/100
(1階天井：外皮部分該当なし)

天井屋根・面積集計表

天井	桁上断熱部分：計算式	Σ天井-1 2F桁上断熱
J	9,100 × 7,280 = 66,248,000	66,248,000

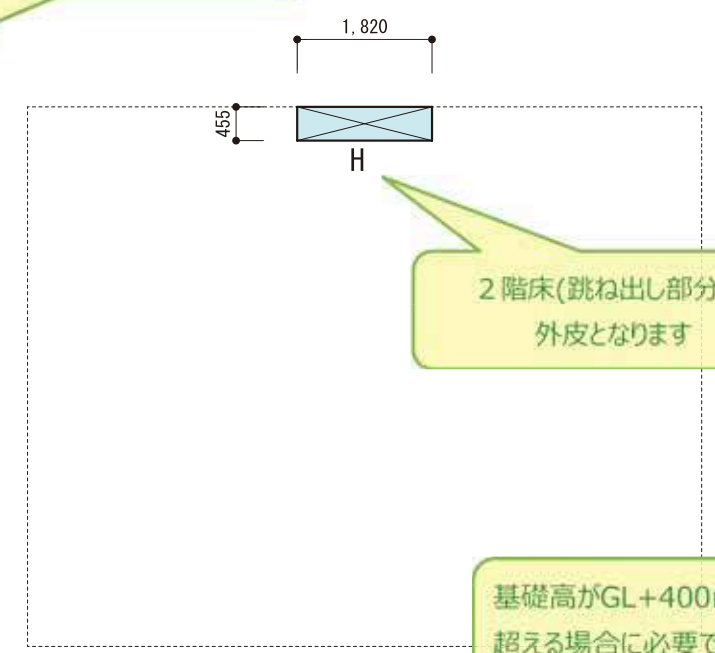
床・面積集計表

床	床断熱部分：計算式	床-1 一般	床-2 畳	床-3 2F (跳出し部分)	床-4 土間
A	2,730 × 3,640 = 9,93720		9,93720		
B	3,640 × 3,640 = 13,24960	13,24960			
C	0,910 × 3,640 = 3,31240	3,31240			
D	1,820 × 5,005 = 9,10910	9,10910			
E	1,820 × 5,915 = 10,76530	10,76530			
F	0,910 × 1,365 = 1,24215	1,24215			
G	5,460 × 1,820 = 9,93720	9,93720			
H	1,820 × 0,455 = 0,82810			0,82810	
Da	1,820 × 1,820 = 3,31240				3,31240
Db	1,820 × 1,820 = 3,31240				3,31240
Dc	0,910 × 1,365 = 1,24215				1,24215
床Σ		47,61575	9,93720	0,82810	7,86695
床=Σ(床-1・-2・-3・-4) = 66,248000					



1階床面積求積図S=1/100

土間コンクリート部分の面積と基礎周長を集計します



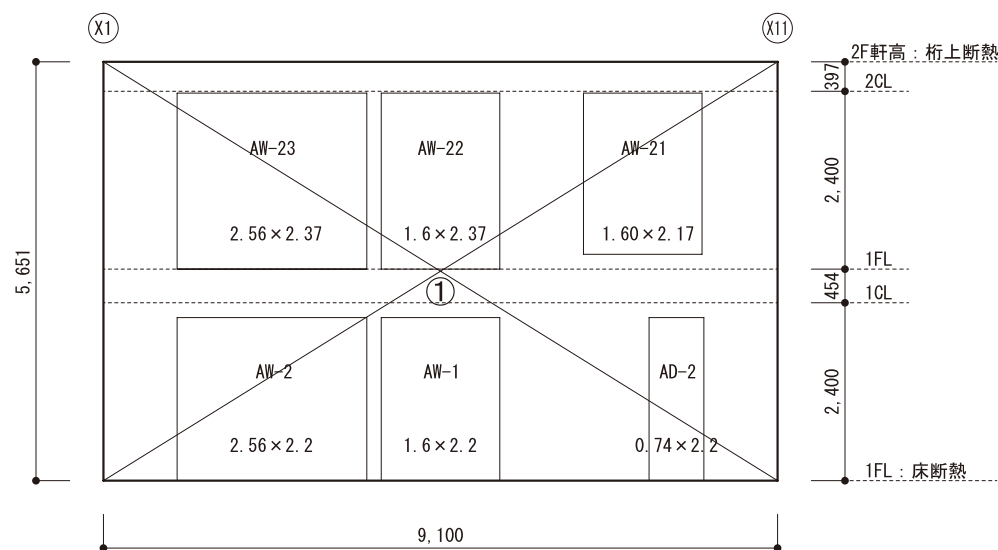
2階床(跳ね出し部分)も外皮となります

基礎高がGL+400mmを超える場合に必要です

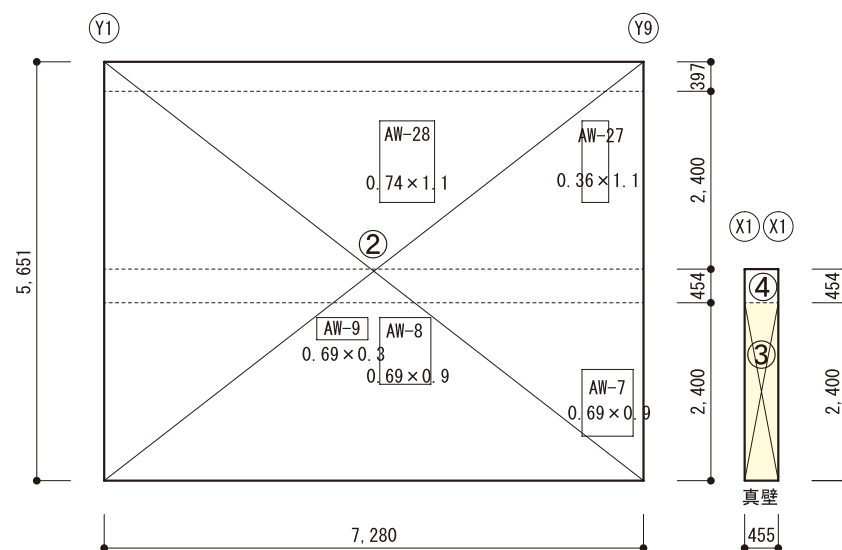
2階床面積求積図S=1/100

基礎立上り：周長・面積集計表

方位	基礎No.	周長LF	周長-1 外気側	周長-2 床下に 通じる	断熱有無	種類
北	外気 L1	1.82	○		有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
東	外気 L2	1.82	○		有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
南	床下 L3	1.82		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
西	床下 L4	1.82		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
北	外気 L5	1.82	○		有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
西	外気 L6	0.455	○		有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
北	外気 L7	0.91	○		有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
東	床下 L8	1.365		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
南	床下 L9	0.91		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
東	床下 L10	0.91		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
南	床下 L11	1.82		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
西	床下 L12	1.82		○	有	押出法* リスレンフォーM3種B 50mm
基礎長さの集計		計	6.825	10.465	m	
基礎断熱		方位	長さ × 高さ	面積	計	
外気側で40cmを超える部分の面積	北	2.095 × 0.009 =	0.0188550	0.0393300 m ²		
	東	1.82 × 0.009 =	0.0163800			
	西	0.455 × 0.009 =	0.0040950			
		南	0 = 0			
外気に通じる床下で40cmを超える部分の面積	方位	長さ × 高さ	面積 m ²	計		
	南	4.550 × 0.009 =	0.0409500	0.0941850 m ²		
	西	3.640 × 0.009 =	0.0327600			
	東	2.275 × 0.009 =	0.0204750			
計	10.465 × 0.009 =	0.0941850				



南面面積求積図S=1/100
Y1通り



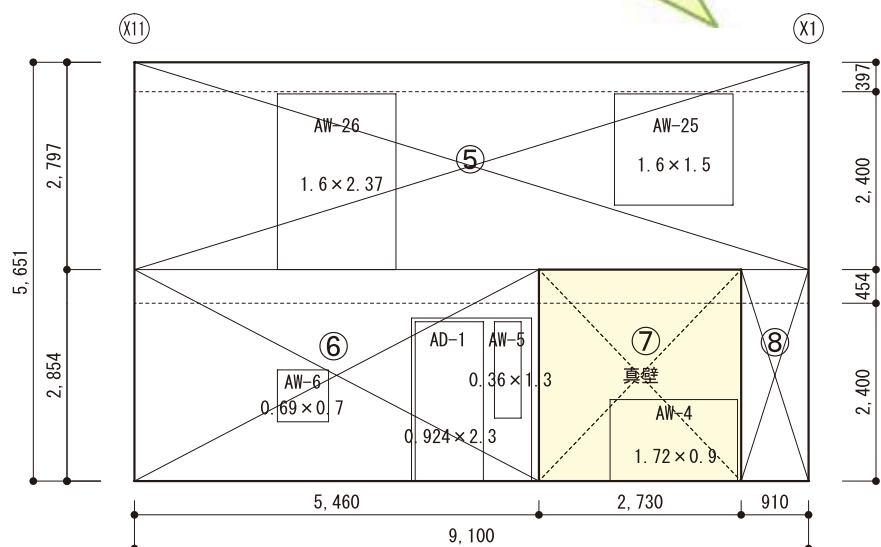
東面面積求積図S=1/100
X11通り

X5通り

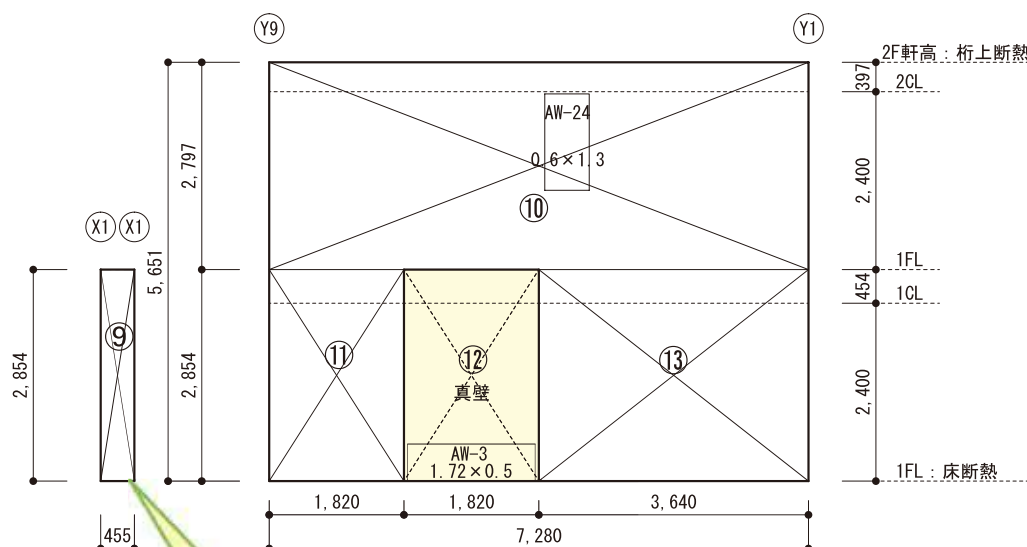
方位	外皮No	外壁計算式 (開口部含む)		Σ外壁-1 大壁	Σ外壁-2 真壁	
		開口部計算式				
南	①	$9.100 \times 5.651 =$	51.424100	51.424100	27.3129	
	開口部	下記表より	- 24.111200	24.111200		
東	②	$7.280 \times 5.651 =$	41.139280	41.345850	0	
	④	$0.455 \times 0.454 =$	0.206570			
	開口部	下記表より	- 2.6590	2.6590		
	③	$0.455 \times 2.400 =$	1.092000	1.092000	0	1.0920
北	⑤	$9.100 \times 2.797 =$	25.452700	43.63268	0	
	⑥	$5.460 \times 2.854 =$	15.582840			
	⑧	$0.910 \times 2.854 =$	2.597140			
	AD-1・ド7	$0.924 \times 2.30 =$	2.125200	2.125200	34.36448	0
	開口部・窓	下記表より	- 7.1430	7.1430		
	⑦	$2.730 \times 2.854 =$	7.79142	7.79142	0	5.89942
	開口部	下記表より	- 1.8920	1.8920		
西	⑨	$0.455 \times 2.854 =$	1.298570	37.24357	0	
	⑩	$7.280 \times 2.797 =$	20.36216			
	⑪	$1.820 \times 2.854 =$	5.19428			
	⑬	$3.640 \times 2.854 =$	10.38856	36.46357	0	
	開口部	下記表より	- 0.7800			0.7800
	⑭	$1.820 \times 2.854 =$	5.19428	5.19428	0	4.33428
開口部	下記表より	- 0.8600	0.8600			
計：外壁 (開口部除く)				136.8278	11.3257	
				148.1535		

開口部面積表

方位	外皮No	開口部計算式	外壁-1 大壁	外壁-2 真壁	
南	AW-1	$1.6 \times 2.2 =$	3.5200	○	
	AW-2	$2.56 \times 2.2 =$	5.6320	○	
	AD-2	$0.74 \times 2.2 =$	1.6280	○	
	AW-21	$1.6 \times 2.17 =$	3.4720	○	
	AW-22	$1.6 \times 2.37 =$	3.7920	○	
	AW-23	$2.56 \times 2.37 =$	6.0672	○	
		計	24.1112	24.1112	0
東	AW-7	$0.69 \times 0.9 =$	0.6210	○	
	AW-8	$0.69 \times 0.9 =$	0.6210	○	
	AW-9	$0.69 \times 0.3 =$	0.2070	○	
	AW-27	$0.36 \times 1.1 =$	0.3960	○	
	AW-28	$0.74 \times 1.1 =$	0.8140	○	
		計	2.6590	2.6590	0
北	AW-4	$1.72 \times 1.10 =$	1.8920		○
	AW-5	$0.36 \times 1.3 =$	0.4680	○	
	AW-6	$0.69 \times 0.70 =$	0.4830	○	
	AW-25	$1.60 \times 1.50 =$	2.4000	○	
	AW-26	$1.60 \times 2.37 =$	3.7920	○	
	AD-1	$0.924 \times 2.30 =$	未計上		
		計	9.0350	7.1430	1.8920
西	AW-3	$1.72 \times 0.50 =$	0.8600		○
	AW-24	$0.60 \times 1.30 =$	0.7800	○	
		計	1.6400	0.7800	0.8600



北面面積求積図S=1/100
Y9通り



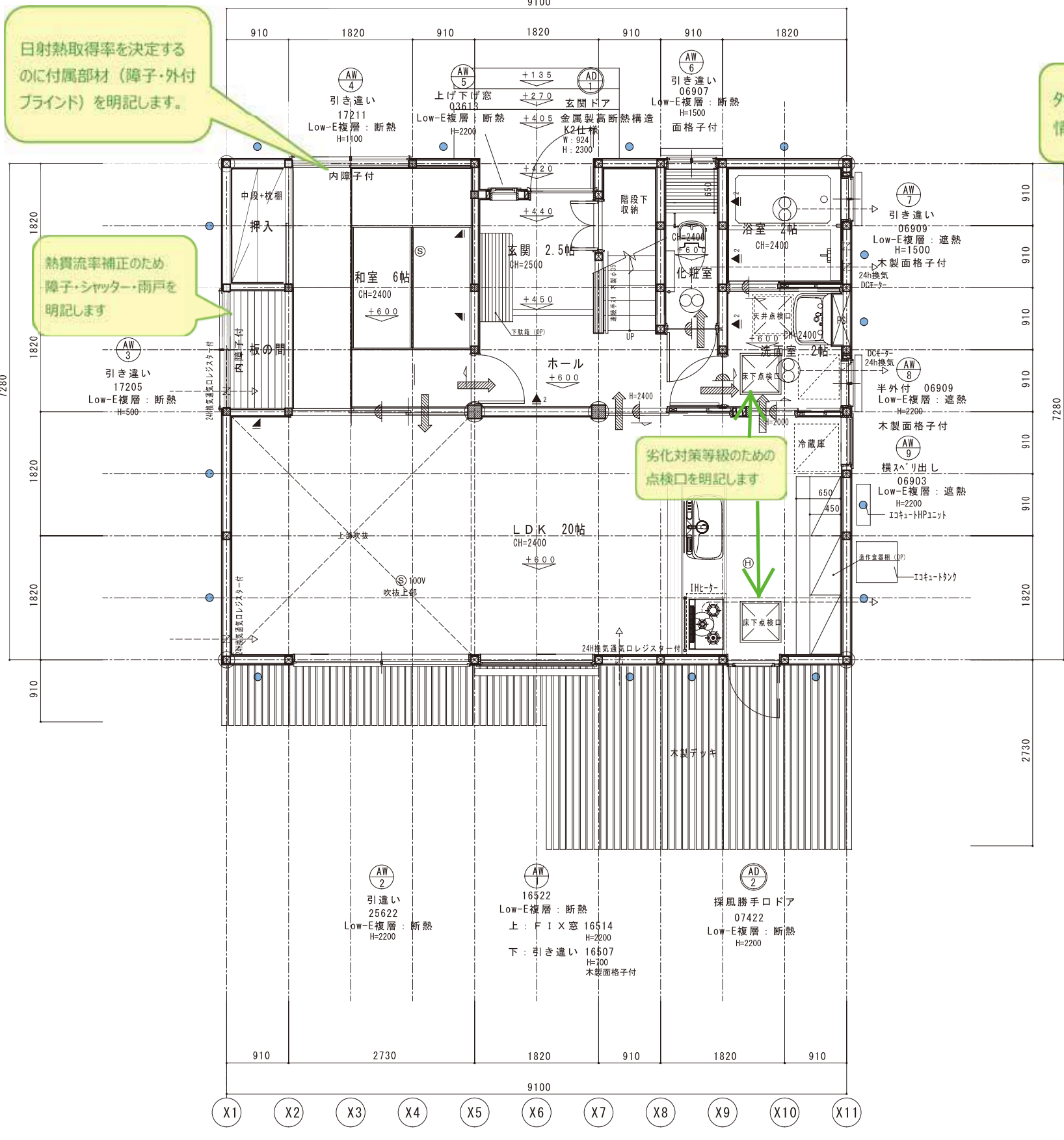
西面面積求積図S=1/100
X1通り

X7通り

ポーチ部分の凹んだ外皮も
忘れずに計上します

方位ごとに分けて集計します

承認	設計	担当	縮尺	工事名称	○ ○ ○ ○ 邸 新 築 工 事
			設計年月日	図面名称	外皮面積計算：外壁・開口部 (建築主等判断基準)
					No A-04

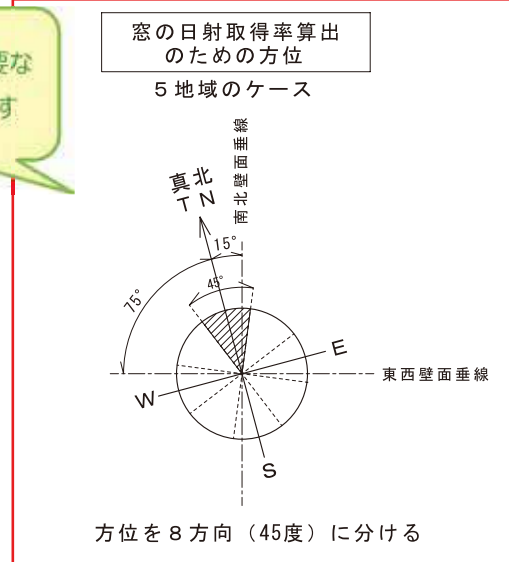


日射熱取得率を決定する
のに付属部材（障子・外付
ブラインド）を明記します。

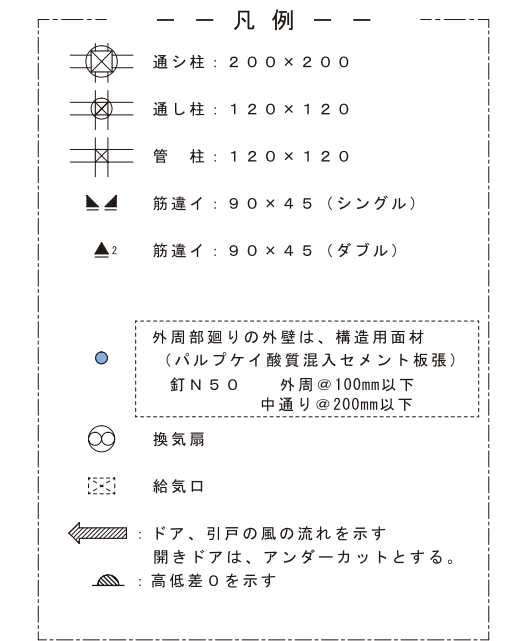
熱貫流率補正のため
障子・シャッター・雨戸を
明記します

劣化対策等級のための
点検口を明記します

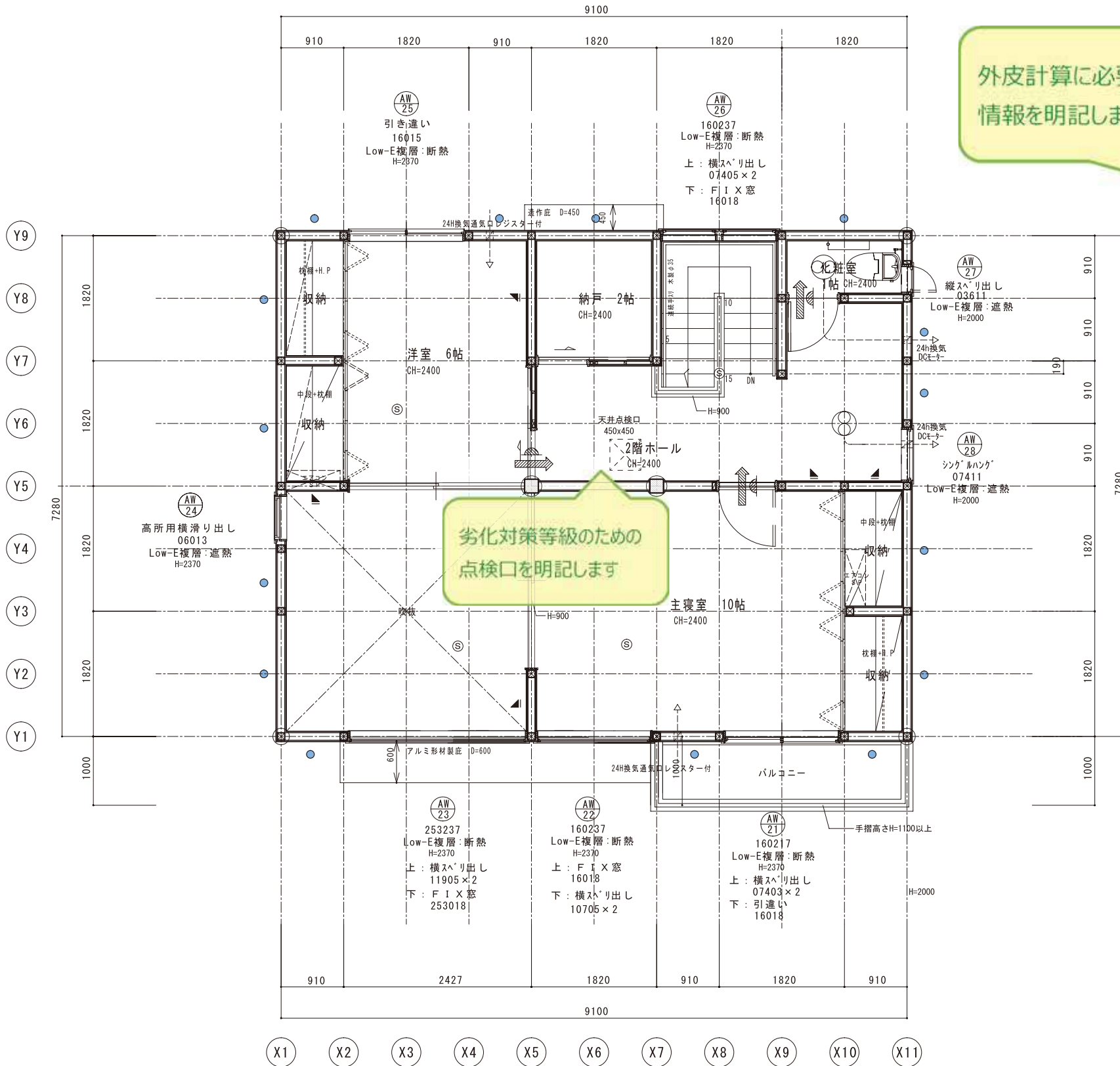
外皮計算に必要な
情報を明記します



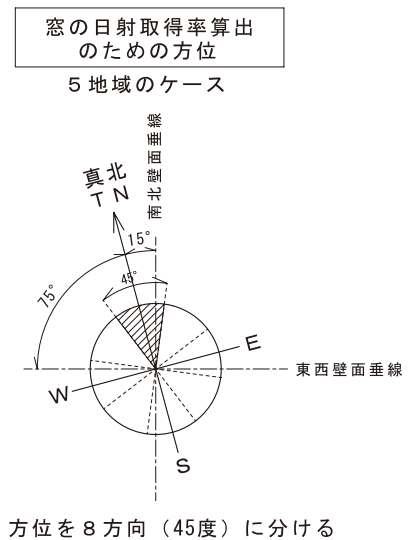
開口部の仕様		省エネルギー基準（H25基準）地域：地域5	
開口部	アルミ樹脂複合製サッシ	熱貫流率	2.33W/(m ² ・k)以下
	ガラス	空気層10mm以上	熱取得タイプ 熱遮熱タイプ
玄関	玄関ドア（K2仕様）	熱貫流率	2.33W/(m ² ・k)以下
	金属製高断熱構造	扉：断熱材充填フラッシュ構造 枠：熱遮断構造	



承認	設計	担当	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	工事名称	〇〇邸 新築工事	A-05
					図面名称	1階平面図	

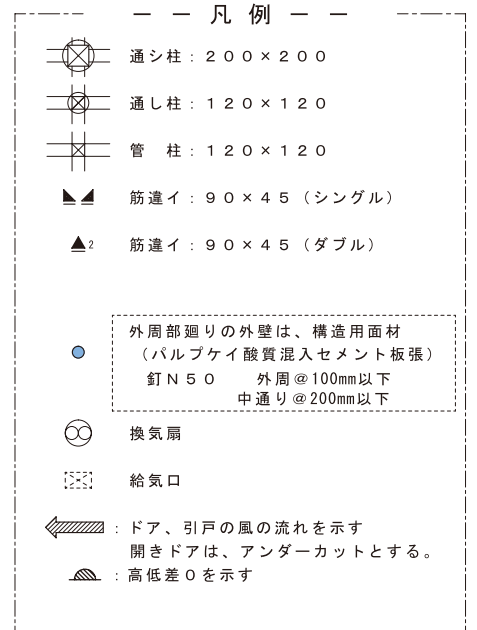


外皮計算に必要な
情報を明記します

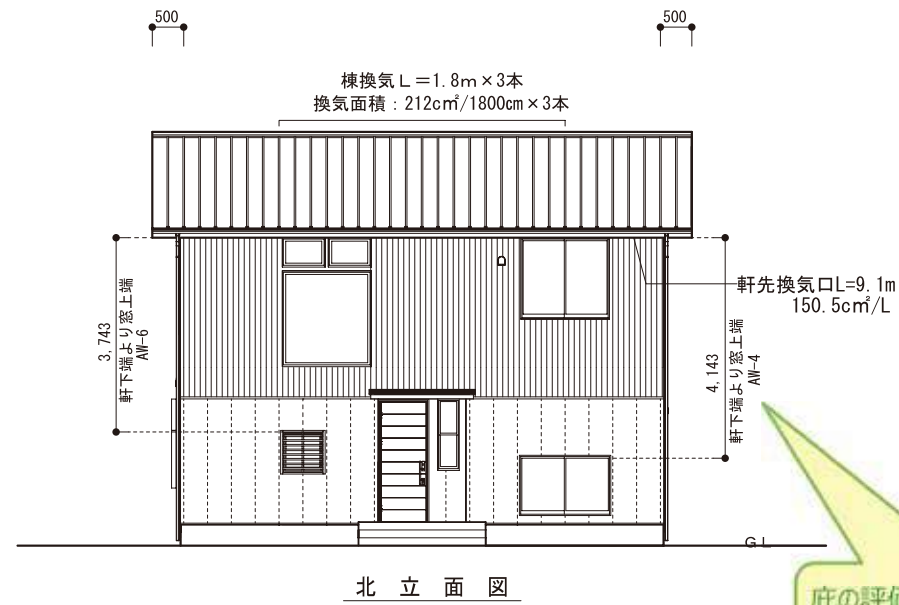


開口部の仕様
省エネルギー基準 (H25基準) 地域: 地域5

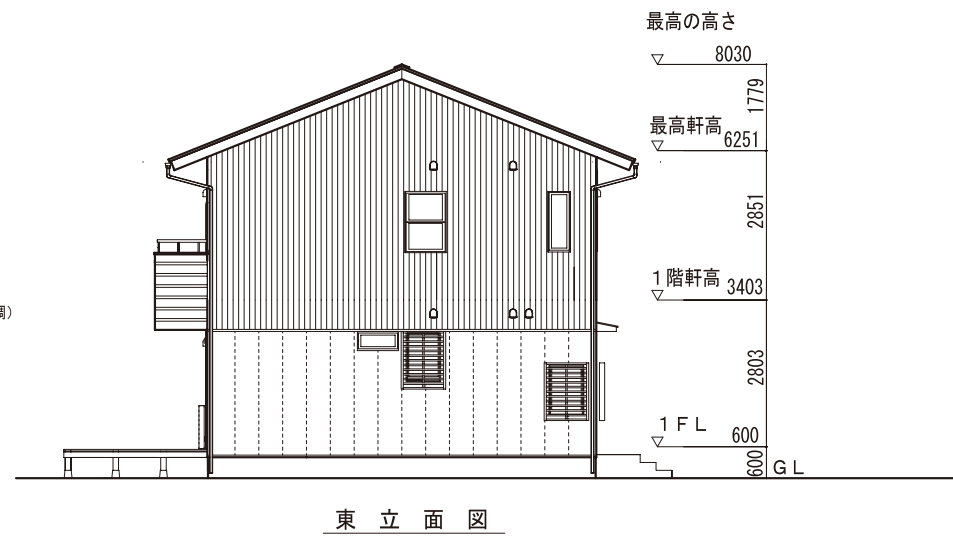
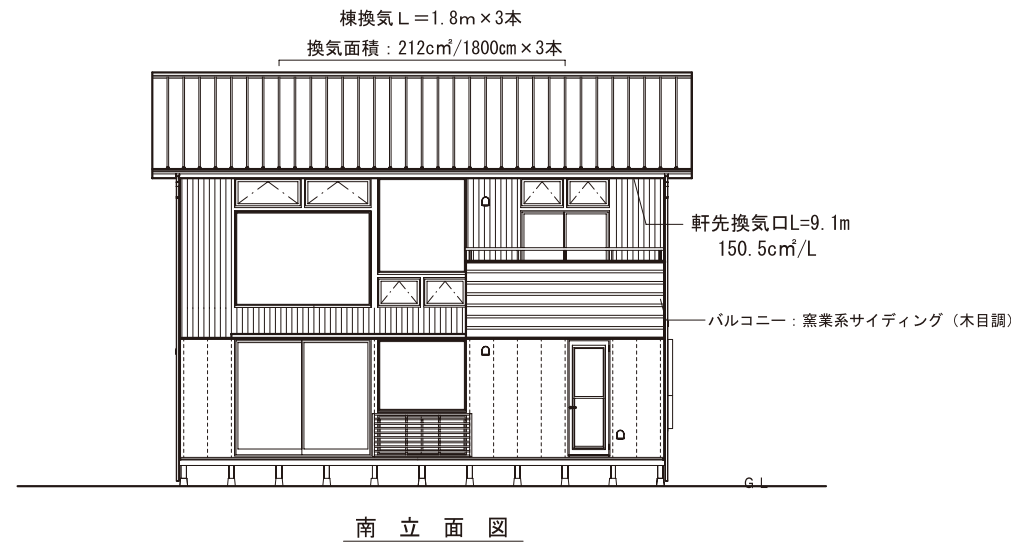
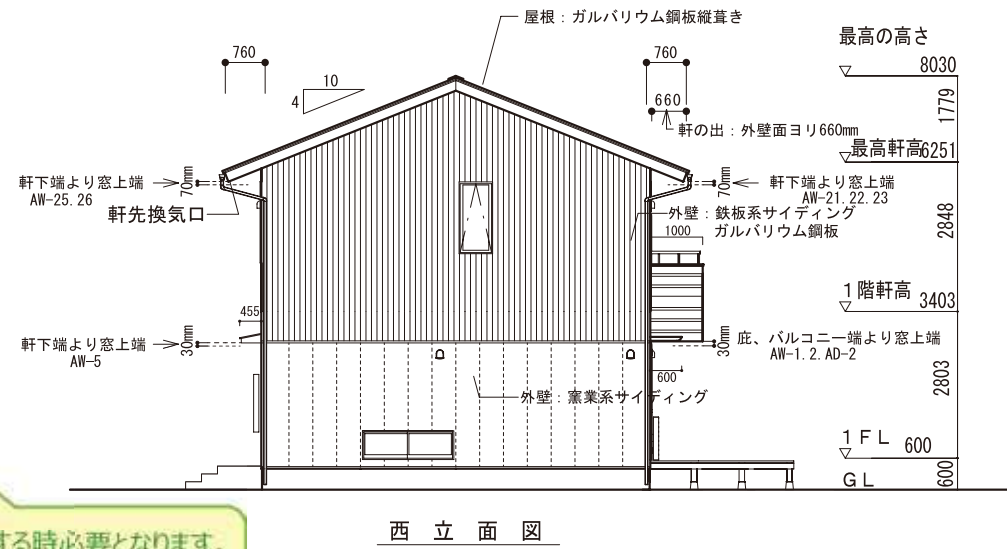
開口部	アルミ樹脂複合製サッシ	熱貫流率 2.33W/(m ² ·k)以下
	ガラス	空気層10mm以上 熱取得タイプ 熱遮断タイプ
玄関	玄関ドア (K2仕様)	熱貫流率 2.33W/(m ² ·k)以下
	金属製高断熱構造	扉: 断熱材充填アラック構造 枠: 熱遮断構造



承認	設計	担当	縮尺	A2: 1/50	工事名称	〇〇邸新築工事	
				A3: 1/70			図面名称
							A-06



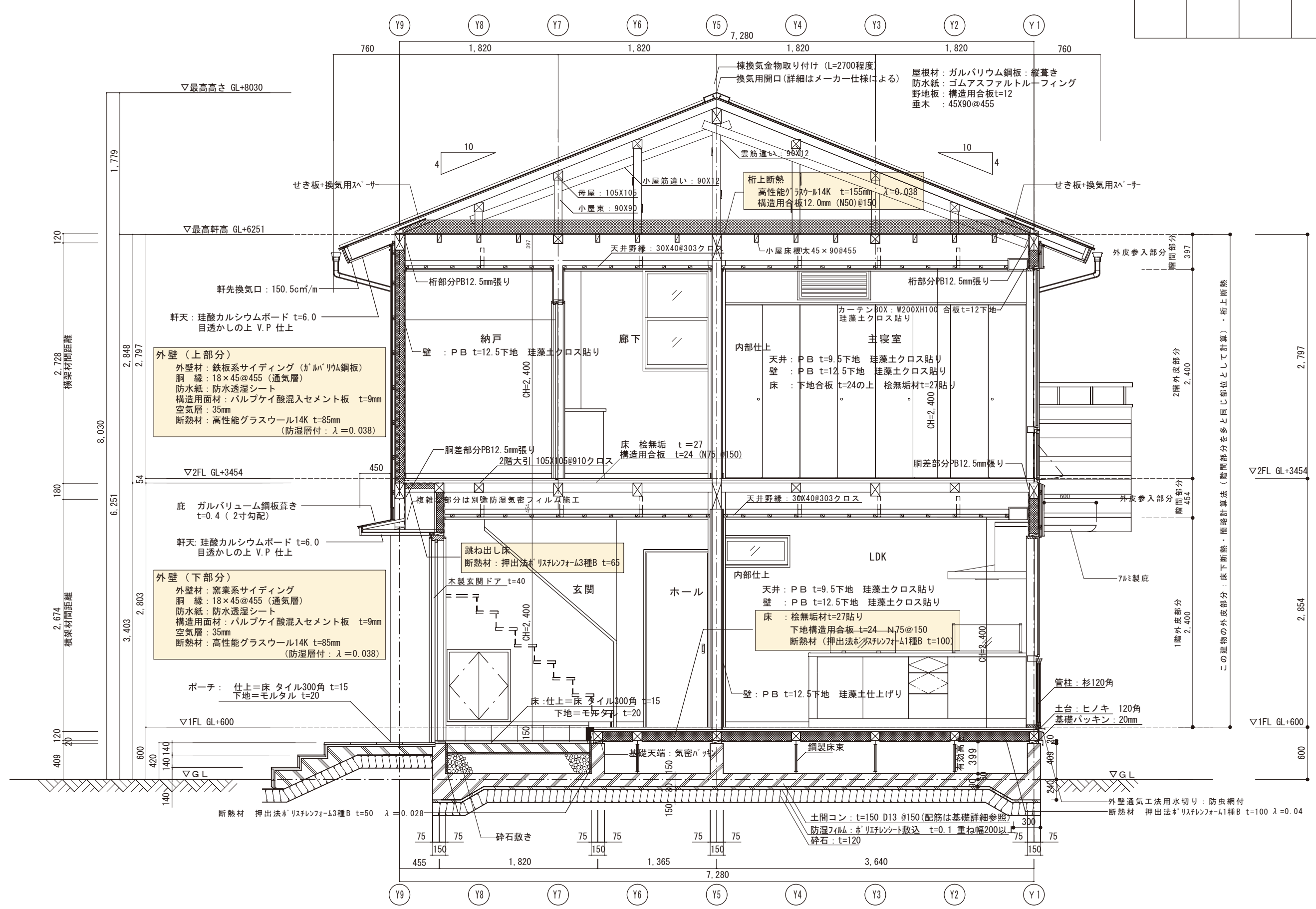
底の評価をする時必要となります。
※定数法の場合は不要



劣化対策等級のため
小屋裏換気計算をします

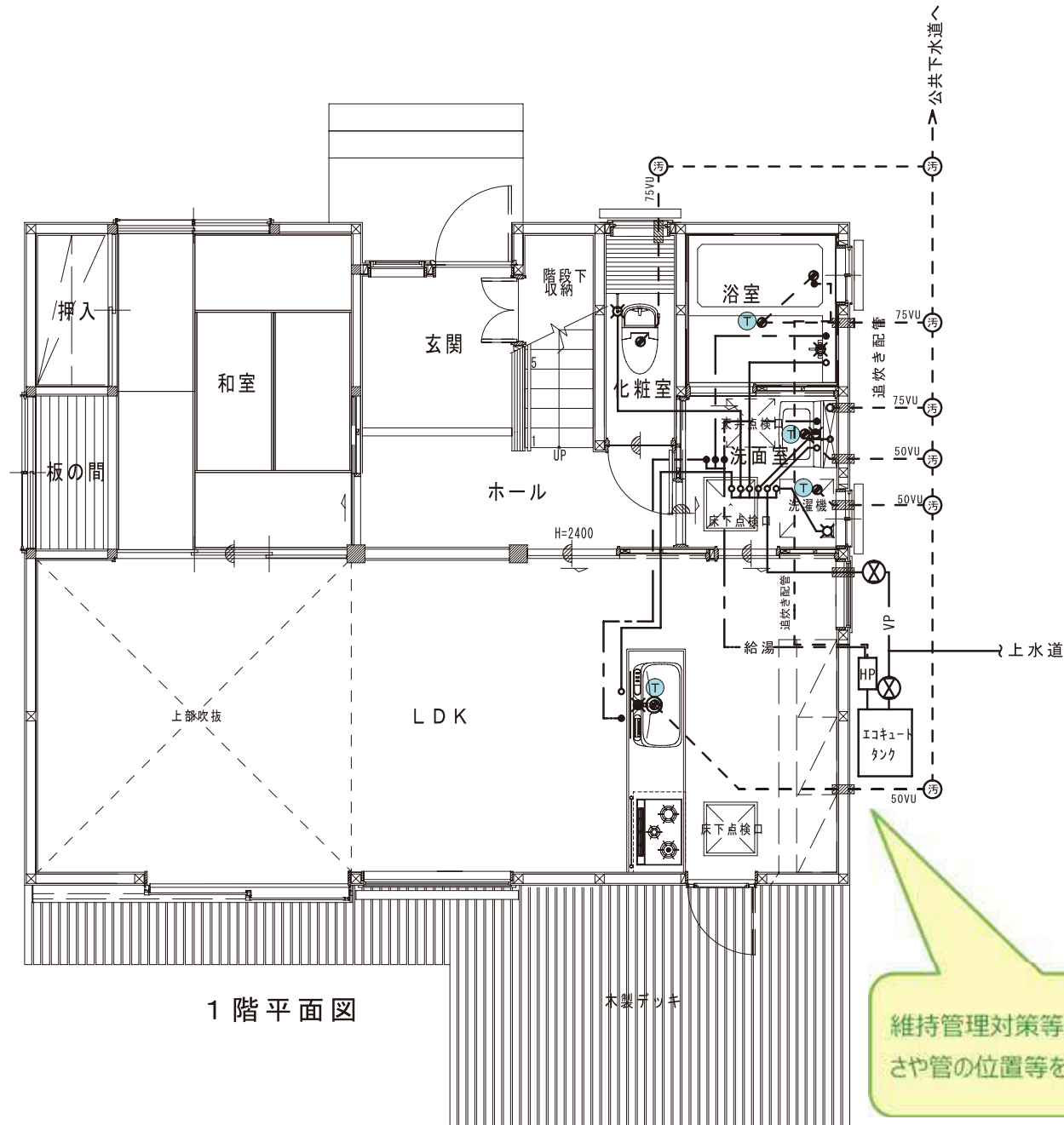
必要換気面積	吸気孔	662480cm ² (2階小屋裏面積) × 1/900 = 736.08cm ²
	排気孔	662480cm ² (2階小屋裏面積) × 1/1600 = 414.05cm ²
有効換気面積	吸気孔	150.5cm ² /L × 9.1 × 2 = 2739.1cm ²
	排気孔	212cm ² /1800mm × 3 set = 636cm ²
判定	吸気孔	736.08cm ² < 2,739.1cm ² ∴OK 【3.71/900】
	排気孔	414.05cm ² < 636.000cm ² ∴OK 【1.53/1600】

承認	設計	担当	縮尺	A2: 1/100 A3: 1/70	工事名称	〇〇邸新築工事	A-07
					図面名称	立面図	

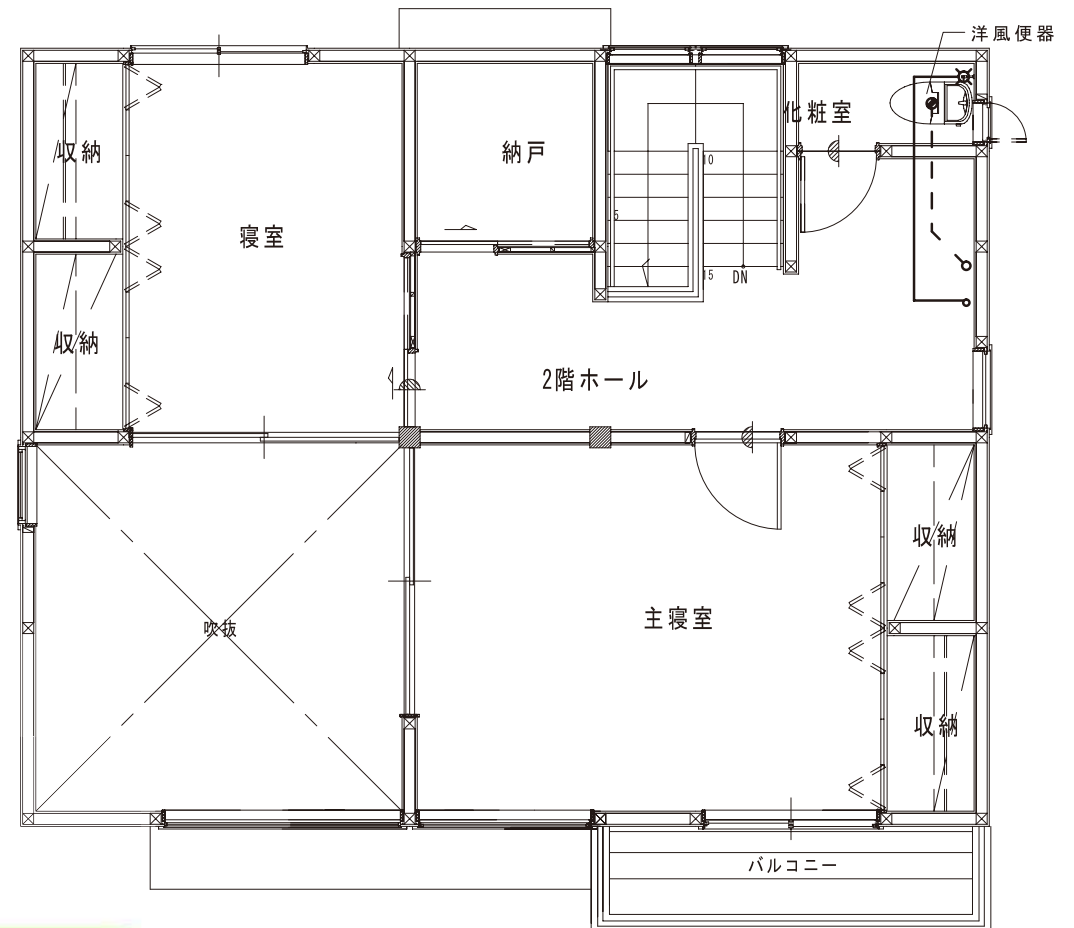


承認	設計	担当	縮尺	A2：1/30	工事名称	〇〇〇邸新築工事
				A3：1/42	図面名称	矩形図

A-08



1階平面図



2階平面図

維持管理対策等級のため配管経路、
さや管の位置等を明記します

維持管理に関する凡例

架橋*リフレ管	給水管	基礎の立上り部分以外のコンクリートに埋め込まない 地中埋設管のうえにコンクリートを打設しない。 ヘッダーからの配管は13φとする
- V U -	排水管	
架橋*リフレ管	給湯管	
	排水管	内部は平滑とする。(塩ビ管溶着) 中間部継ぎ手廻り等を支持金物にて固定
⊙	トラップ	掃除可能 1Fトイレ：隣接排水樹に接続 2Fトイレ：取り外し可能な洋風便器
▨	さや管	給排水管の基礎外周部

承認	設計	担当	縮尺	A2 : 1/50 A3 : 1/70	工事名称	〇〇邸新築工事	A-09
					図面名称	給排水設備図	

壁量計算書（建基法令46条3項及び性能表示による計算）

階数	建築物の階数	床面積による計算		見付け面積による計算					
		桁行方向		桁行方向		梁間方向			
2階	建築物の2階	基準法による軸組長さ 床面積係数 (ニ)軸組長さ $52.99 \times 0.15 = 7.95$ m		耐風等級-1 (基準法)		耐風等級-1 (基準法)			
		等級-2に必要な軸組長さ $[25 \times K2 \times Z] \times S2$ $K2$ Z $S2$ (面積) $18 \times 1.38 \times 1.0 \times 66.25$ m ² 軸組長さ (子)軸組長さ = $1,645.65$ cm = 16.46 m		見付面積 (A2) 軸組長さ 19.26 m ² $\times 50 = 9.63$ m (ホ)	見付面積 (B2) 軸組長さ 32.41 m ² $\times 50 = 16.21$ m (ヘ)	存在壁量 (桁行の方向の数値) 軸組長さ \times 箇所 \times 倍率 = 有効軸組長さ		存在壁量 (梁間の方向の数値) 軸組長さ \times 箇所 \times 倍率 = 有効軸組長さ	
		壁・軸組の種類		構造用面材 9.0mm		0.91 5 2.9 13.195		0.91 3 2.9 7.917	
		筋 違 90×45		0.91 2 2.9 10.556		1.82 5 2.9 26.39		1.82 3 2.9 8.556	
		筋 違 90×45		0.91 3 2 5.46		0.91 1 2 1.82		0.91 1 2 1.82	
		筋 違 90×45		0.91 1 2 3.64		1.82 1 2 3.64		1.82 1 2 3.64	
		(有効軸組長さ) 判定		(チ)又は(ホ)の大なる方 16.46 m \leq 29.211		(チ)又は(ヘ)の大なる方 16.46 m \leq 39.767			
		基準法による軸組長さ 床面積係数 (イ)軸組長さ $65.41 \times 0.29 = 18.97$ m		耐風等級-1 (基準法)		耐風等級-1 (基準法)			
		等級-2に必要な軸組長さ $[58 \times K1 \times Z] \times S1$ $K1$ Z $S1$ (面積) $45 \times 0.99 \times 1.0 \times 67.71$ m ² 軸組長さ (ト)軸組長さ = $3,016.48$ cm = 30.17 m		見付面積 (A1) 軸組長さ 42.02 m ² $\times 50 = 21.01$ m (ロ)	見付面積 (B1) 軸組長さ 59.06 m ² $\times 50 = 29.53$ m (ハ)	存在壁量 (桁行の方向の数値) 軸組長さ \times 箇所 \times 倍率 = 有効軸組長さ		存在壁量 (梁間の方向の数値) 軸組長さ \times 箇所 \times 倍率 = 有効軸組長さ	
		壁・軸組の種類		筋 違 90×45 (ダ'ブ'ル)		0.91 1 4 7.28		0.91 3 4 10.92	
筋 違 90×45 (シングル)		0.91 1 2 1.82		0.91 1 2 1.82		1.365 1 2 2.73			
筋 違 90×45		0.91 7 2.9 18.473		0.91 3 2.9 7.917		0.91 3 2.9 7.917			
筋 違 90×45		1.82 1 2.9 5.278		1.82 4 2.9 21.112		1.82 2 2.9 10.556			
(有効軸組長さ) 判定		(ト)又は(ロ)の大なる方 30.17 m \leq 32.851		(ト)又は(ハ)の大なる方 30.17 m \leq 44.499					

等級2以上を確認するための係数を算出します

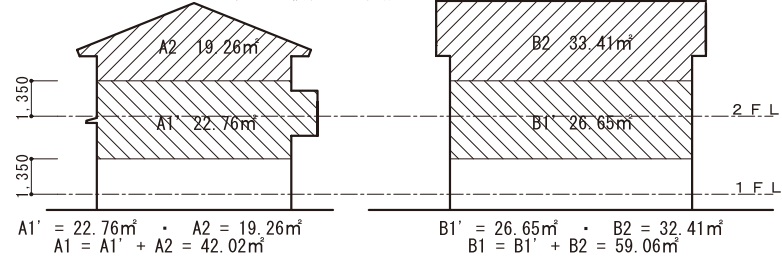
地震に関する必要壁量 (性能評価)

階数	一般地域		
	等級-2	等級-3	等級-3
1階	軽い屋根 $[45 \times K1 \times Z] \times S1$	$[54 \times K1 \times Z] \times S1$	$[54 \times K1 \times Z] \times S1$
2階	軽い屋根 $[18 \times K2 \times Z] \times S2$	$[22 \times K2 \times Z] \times S2$	$[30 \times K2 \times Z] \times S2$
	重い屋根 $[25 \times K2 \times Z] \times S2$	$[30 \times K2 \times Z] \times S2$	$[30 \times K2 \times Z] \times S2$

係数記号	計算式	値
S1	1F壁量計算用床面積	67.71 m ²
S2	2F壁量計算用床面積	66.25 m ²
Rf	$S2/S1$	$66.25 \div 67.71 = 0.9784$
K1	$0.4 + 0.6 \times Rf$	$0.4 + 0.6 \times 0.9784 = 0.99$
K2	$1.3 + 0.07 \div Rf$	$1.3 + 0.07 \div 0.9784 = 1.38$
Z	地震地域係数	茨城県はZ=1

<見付面積図>

<見付面積表は別紙添付>



(屋根、壁による係数 (あ) (い))

階数が1の建築物 (基準法)	
軽い屋根	あ 1階
上記以外の屋根	い 1階

階数が2の建築物 (基準法)	
軽い屋根	あ 1階 い 2階
上記以外の屋根	あ 1階 い 2階

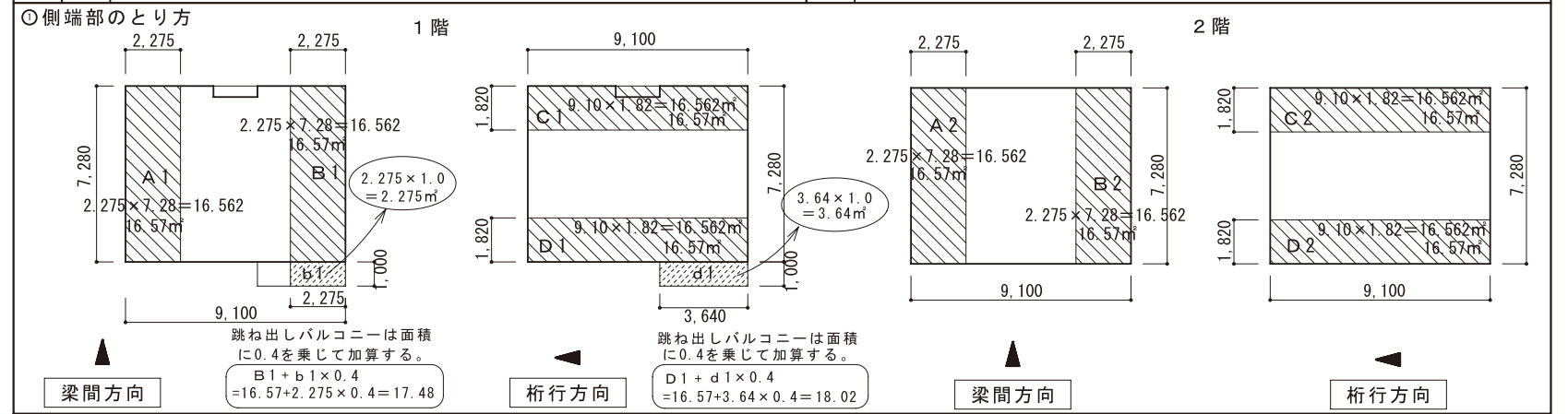
見付け面積に乗ずる数値 (基準法)	
指定区域内	0.5~0.75 * 2
区域外の区域	0.50

* 2 特定行政庁が定める値

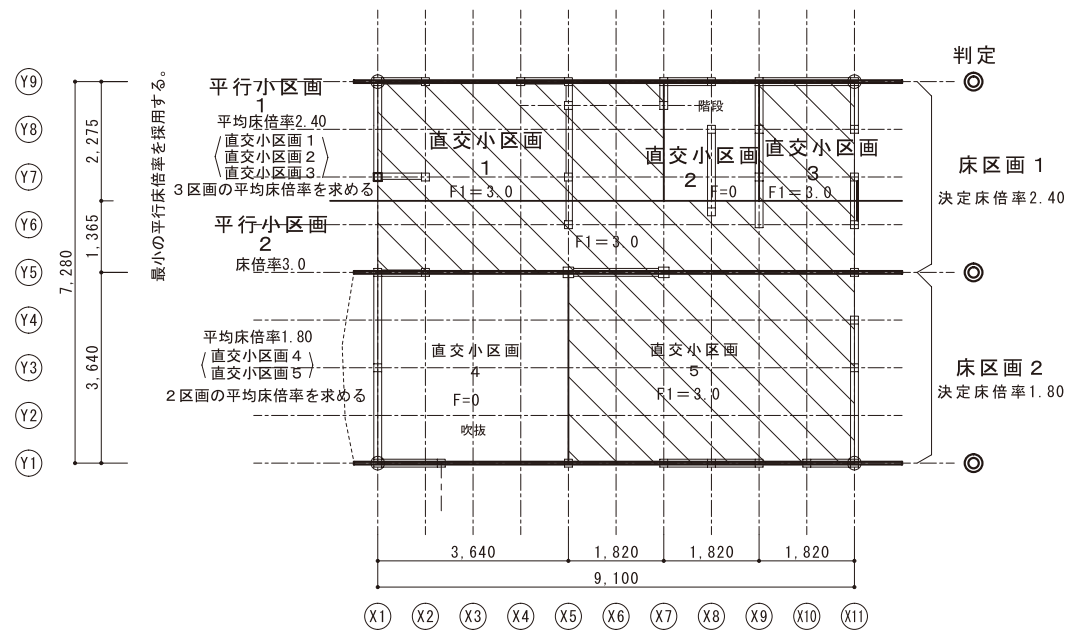
軸組釣り合い計算書 (性能表示の床面積による)

告示第1352号軸組釣り合い計算表記入方法

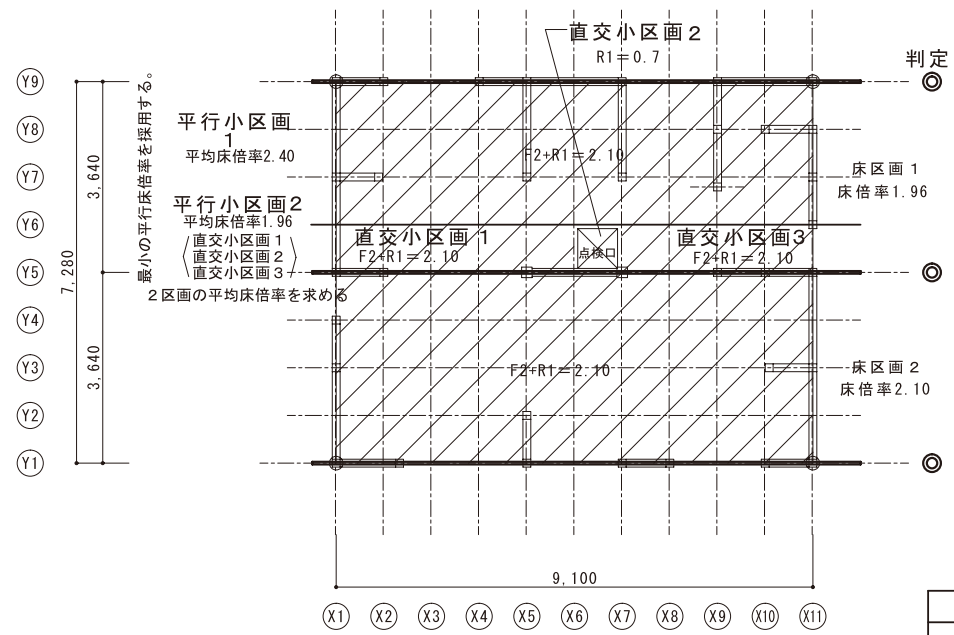
階数	建築物の階数	梁間方向				桁行方向															
		左側端部 (A)		右側端部 (B)		上側端部 (C)		下側端部 (D)													
2階	建築物の2階	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率											
		1.82	3	2.9	15.834	0.91	3	2.9	7.917	1.82	1	2.9	5.275	0.91	4	2.9	10.556				
		0.91	1	2.9	5.278	0.91	3	2.9	7.917												
		0.91	3	4.0	10.92																
		合計			15.834	合計			24.115	合計			13.195	合計			10.556				
		必要壁量	側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数						
		16.57	$\times 0.29 = 4.81$ m				17.48	$\times 0.29 = 5.07$ m				16.57	$\times 0.29 = 4.81$ m				18.02	$\times 0.29 = 5.23$ m			
		壁量充足率	存在壁量 必要壁量				壁量充足率				壁量充足率				壁量充足率						
		15.834	$\div 4.81 = 3.29$				24.115	$\div 5.07 = 4.75$				13.195	$\div 4.81 = 2.74$				10.556	$\div 5.23 = 2.01$			
		世帯	壁量充足率が両側端部に1.0を超えていれば、この階検証は終了																		
世帯	壁率比 左右側端部の壁量充足率の小さい方を大きい方で除した数値が0.5以上であるか 小さい方 \div 大きい方 $= \geq 0.5$																				
2階	建築物の2階	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率	存在壁量 軸組長さ	箇所	倍率											
		1.82	3	2.9	15.834	1.82	2	2.9	10.556	1.82	2	2.9	10.556	0.91	3	2.9	7.917				
		0.91	1	2.9	2.639	0.91	2	2.9	5.278	0.91	2	2.9	5.278								
		合計			18.473	合計			15.834	合計			15.834	合計			7.917				
		必要壁量	側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数				側端部の床面積 係数						
		16.57	$\times 0.15 = 2.49$ m				16.57	$\times 0.15 = 2.49$ m				16.57	$\times 0.15 = 2.49$ m				16.57	$\times 0.15 = 2.49$ m			
		壁量充足率	存在壁量 必要壁量				壁量充足率				壁量充足率				壁量充足率						
		18.473	$\div 2.49 = 7.41$				15.834	$\div 2.49 = 6.35$				15.834	$\div 2.49 = 6.35$				7.917	$\div 2.49 = 3.17$			
		世帯	壁量充足率が両側端部に1.0を超えていれば、この階検証は終了																		
		世帯	壁率比 左右側端部の壁量充足率の小さい方を大きい方で除した数値が0.5以上であるか 小さい方 \div 大きい方 $= \geq 0.5$																		



承認	設計	担当	縮尺	工事名称	〇〇〇〇邸新築工事
			設計年月日	図面名称	軸組計算表、軸組釣り合い計算書



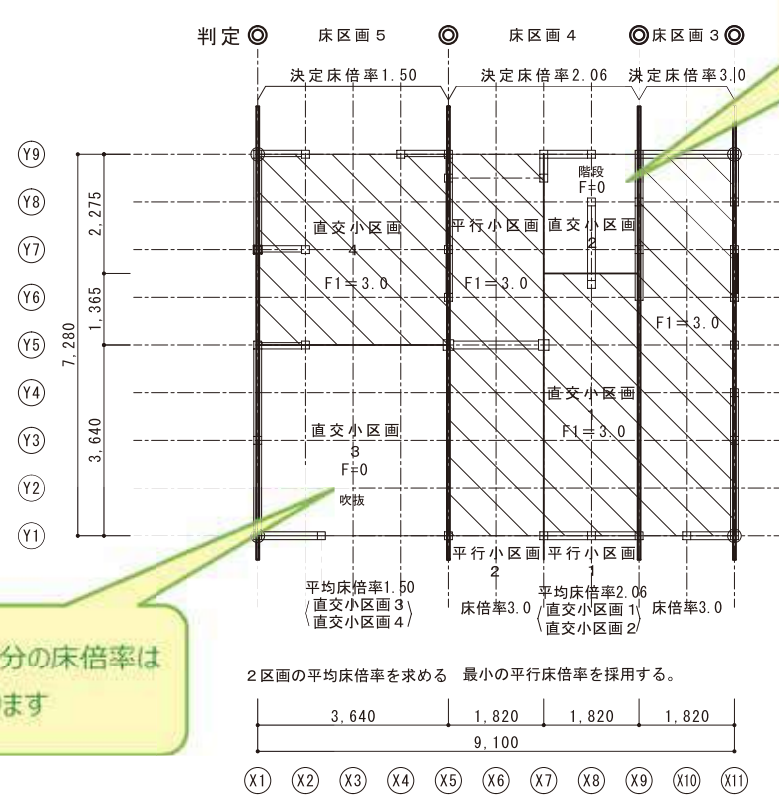
1階耐力壁区画図 X方向



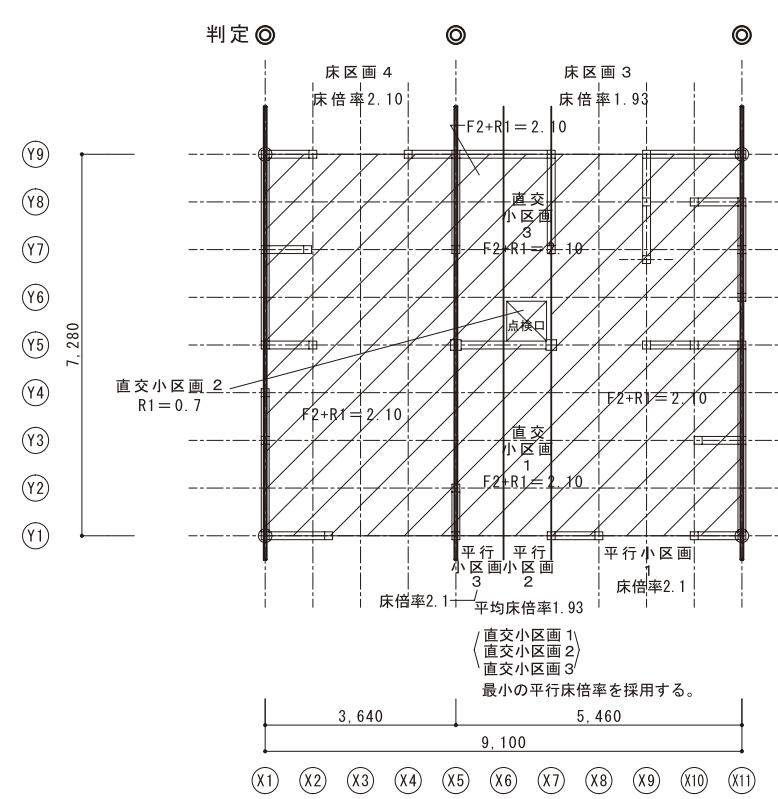
2階耐力壁区画図 X方向

火打ち梁、板材、構造用合板などで各区画の床倍率を満たすようにします

凡例	床仕様		存在床倍率	
	2 F床下地: F1	構造用合板 2.4mm 根太無し直張り 4周釘打ち N75@150以下	3	
	吹抜		0	
	2 F小屋床面: F2	構造用合板 12mm 根太@500以下 落とし込み N50@150以下	1.40	2.10
	2 F野地板: R1	5寸勾配以下、構造用合板9.0mm以上 垂木@500mm以下転ばし、N50@150以下	0.70	



1階耐力壁区画図 Y方向



2階耐力壁区画図 Y方向

階段部分の床倍率は0となります

吹抜部分の床倍率は0となります

耐力壁線となるかチェックします

耐力壁線のチェック

①耐力壁線 (◎となる通り)	その通りの住宅性能表示の存在壁量 (cm) \geq $\frac{\text{その通りの床の長さ (cm)}}{\text{かつ400cmのうち大きいほうの数値}}$ $\times 0.6$	◎とする
②耐力壁線 (○となる通り)	各階・各方向の最外周壁線で、①の条件をみたさない通り ※最外周壁線とは、その通りが端から端まで外壁であるような通り	○とする
③耐力壁線ではない通り (×となる通り)	①、②の条件をみたさない通り	×とする

承認	設計	担当	縮尺 A2: 1/100 A3: 1/140	工事名称 ○ ○ ○ ○ 邸 新築工事
				図面名称 耐力壁区画図

床倍率計算シート

〇〇〇〇邸新築工事

注意)このシートを適用できるのは、階数2以下の木造建築物で耐震又は耐風等級を「等級2」以上とし、かつ許容応力度等計算により床の剛性・接合部耐力をチェックしない場合に限られます。

階	通り記号	耐力壁・準耐力壁等の倍率及び壁長(cm)								各通りの存在壁量	各通りの奥行長さ	奥行長さ×0.6	耐力壁線の判定
		4	4	2.9	2.9	2.9	2.9	2	2				
1	Y1			91	91	91	91			1055.6	910	546	◎
1	Y5			182					91	709.8	910	546	◎
1	Y9			91	91	91	182			1319.5	910	546	◎
1	X1				182	182	182			1583.4	728	436.8	◎
1	X5								91	455	728	436.8	◎
1	X9	91	91							1092	728	436.8	◎
1	X11				182	91	91	91		1319.5	728	436.8	◎
2	Y1					121.3	91	91		879.57	910	546	◎
2	Y5								91	546	910	546	◎
2	Y9				91	91	182	182		1583.4	910	546	◎
2	X1					182	91	364		1847.3	728	436.8	◎
2	X5								91	546	728	436.8	◎
2	X11					182	182	182		1583.4	728	436.8	◎

耐力壁線となるか判定します

接合部のチェック

①筋違端部の接合部
筋違プレート(BP-2)

②柱頭・柱脚の接合部
N値計算による

③胴差と通し柱の接合部

通し柱と胴差の条件		仕口の仕様
T1	通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差をかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、羽子板ボルト、かね折り金物、又は同等以上の仕口
T2	通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差をかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、短冊金物又は同等以上の仕口で胴差相互を緊結
T3	通し柱と胴差の接合部近くに90×90mm以上の筋違が来る場合(ただし、通し柱が出隅にあるか、筋違が外壁と直交して接する場合のみ)	胴差を通し柱に15kN用引寄せ金物を水平に用いて緊結

④床・屋根の外周の横架材の接合部
下屋の付け根の接合部

建物の最外周の耐力壁線から1.5mを超える位置にある入隅部の接合部

耐力壁線距離が4mを越える床・屋根面の中間にある接合部

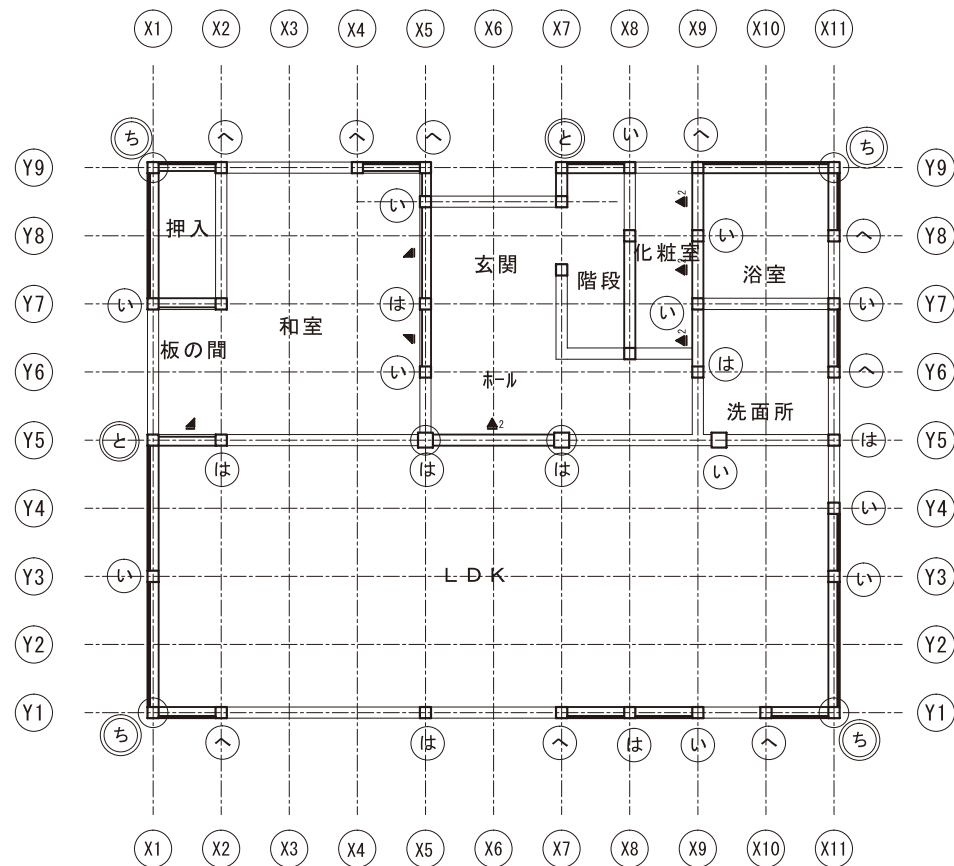
耐震等級	等級2	風速	34 m
屋根の種類	軽い屋根	Z=	1.0
S1=	67.71	S2=	66.25
Rf = S2/S1 =	0.98	多雪区域の場合、積雪	0 m
K1 = 0.4 + 0.6Rf =	0.99	K2 = 1.3 + 0.07/Rf =	1.38
単位面積必要壁量	2階	24.84	1階
			44.55

階	耐力壁線	判定	上階耐力壁線の有無(1階)	α	耐力壁線間距離 l	壁線方向 L	地震に対する必要床倍率			風に対する必要床倍率			平均存在倍率の計算					床倍率判定		床梁・小屋梁の継手・仕口のチェック						
							単位面積必要壁量	CE	必要床倍率	Vo	見付面積に乘ずる数値	CW	必要床倍率	床倍率	壁線方向距離	床倍率	壁線方向距離	火打	平均床倍率	耐震判定	耐風判定	部位	必要接合床倍率	継手・仕口の種類	存在接合部倍率	判定
1	Y1	◎	無	0.5	364	910	44.55	0.22	0.41					0	364	3	546		1.80	適		その他	0.70	J1	1.9	適
1	Y5	◎	無	0.5	364	910	44.55	0.22	0.41					0	182	3	728		2.40	適		その他	0.70	J1	1.9	適
1	Y9	◎																								
1	X1	◎	無	0.5	364	728	44.55	0.22	0.41					0	364	3	364		1.50	適		その他	0.70	J1	1.9	適
1	X5	◎	無	0.5	364	728	44.55	0.22	0.41					0	227.5	3	500.5		2.06	適		その他	0.70	J1	1.9	適
1	X9	◎	無	0.5	182	728	44.55	0.22	0.20							3	728		3.00	適		その他	0.70	J1	1.9	適
1	X11	◎																								
2	Y1	◎		1	364	910	24.84	0.12	0.45													その他	0.70	J1	1.9	適
2	Y5	◎		1	364	910	24.84	0.12	0.45					0.7	91	2.1	910		1.96	適		その他	0.70	J1	1.9	適
2	Y9	◎																								
2	X1	◎		1	364	728	24.84	0.12	0.45							2.1	728		2.10	適		その他	0.70	J1	1.9	適
2	X5	◎		1	546	728	24.84	0.12	0.68					0.7	91	2.1	637		1.93	適		4m	1.94	J2	3	適
2	X11	◎																								

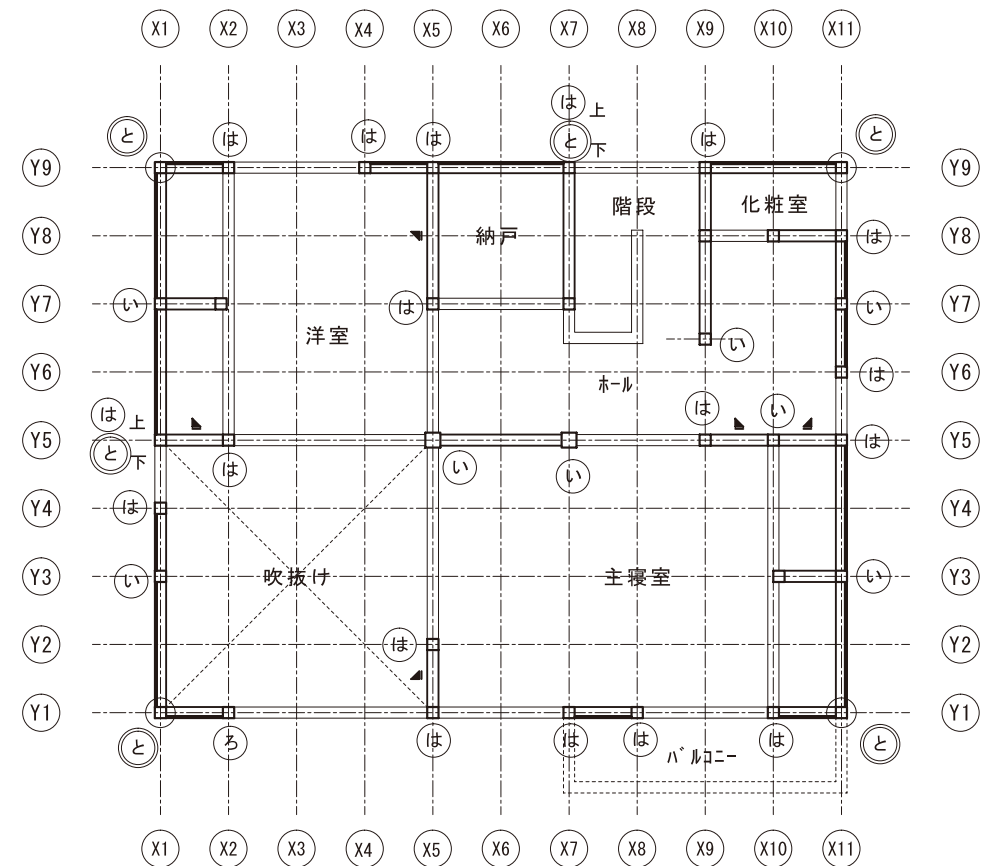
必要な床倍率を求めます

平均存在床倍率を求めます

床倍率に応じた継手・仕口の倍率をチェックします



1階柱頭、柱脚金物



2階柱頭、柱脚金物

告示第1460号が想定している接合の部耐力等

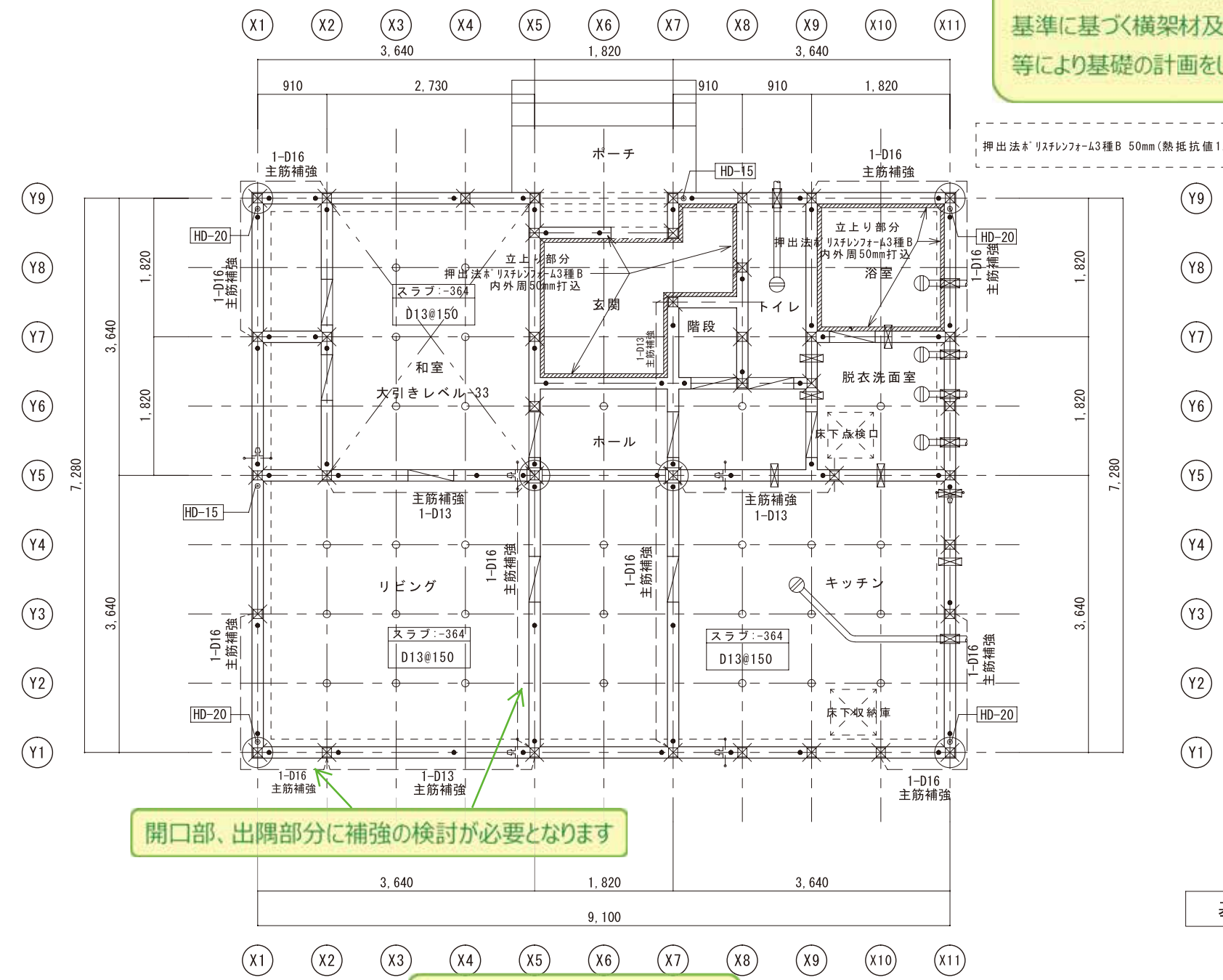
告示記号	必要耐力 (kN)	接合部の倍率	接合部の構造方法 (zマーク表示金物)	参考例
い	0.0	0.0	短ほぞ差し かすがい (C)	短ほぞ差し かすがい (C)
ろ	3.4	0.7	長ほぞ差し込み栓 かど金物 (C P・L)	スリムプレート、スリムプレート合板用 はしらどめリトルコーナー
は	5.1	1.0	かど金物 (C P・T) 山形プレート (V P)	はしらどめリトルコーナー合板用 山形プレート (V P)
に	7.5	1.4	羽子板ボルト (S B) または短ざく金物 (S)	ホールダウンプレート10kN用+80角座金
ほ	8.5	1.6	羽子板ボルト (S B + Z S 50) または短ざく金物 (S + Z S 50)	ホールダウンコーナー10kN用 ホールダウンコーナー床合板仕様10kN用
へ	10.0	1.8	引き寄せ金物 (H D - 1 0)	
と	15.0	2.8	引き寄せ金物 (H D - 1 5)	ビス止めホールダウン U (HD-15) 枠材用ビス止めホールダウン U (HD-15)
ち	20.0	3.7	引き寄せ金物 (H D - 2 0)	ビス止めホールダウン U (HD-20) 枠材用ビス止めホールダウン U (HD-25)
り	25.0	4.7	引き寄せ金物 (H D - 2 5)	ビス止めホールダウン U (HD-25) 枠材用ビス止めホールダウン U (HD-25)
ぬ	30.0	5.6	引き寄せ金物 (H D - 1 5) × 2 個	ビス止めホールダウン U (HD-15) × 2 箇所 枠材用ビス止めホールダウン U (HD-15) × 2 箇所

()内は暫定的な数値

N値計算等にて、必要な
柱脚柱頭の金物を求めます

承認	設計	担当	縮尺	A2:1/70 A3:1/98	工事名称	〇〇〇〇邸新築工事
					図面名称	注脚・柱頭金物図

「木造住宅のための構造の安定に関する
基準に基づく横架材及び基礎のスパン表」
等により基礎の計画をします



開口部、出隅部分に補強の検討が必要となります

さや管部分の詳細を明記します

凡例

- 柱位置を示す
- アンカーボルトM-12 L=400 (埋め込み250以上)
- ネダレス仕様のためスクリー式フラット仕上げタイプ
- ホールダウン金物16φ
- 床下人入口 W=600
- 排水概略位置+さや管利用
- さや管利用
- スリーブ

基礎パッキン 有効開口80㎡/m以上
 注記-1 鉄筋のかぶり厚さ60mm確保すること
 注記-2 浴室部分、玄関部分の基礎パッキン部分は、気密工事の処置を行なうこと

※地盤調査により、
地盤の長期許容支持力を確認する。
 ※上記支持力ない場合は、地盤改良工事により、改良後安全を確保する。

ホールダウン位置 (柱120mm) 1/10	継手部分アンカーボルト要領図 1/20
筋違いなし部分 柱120角用	
筋違い有り部分 柱120角用	アンカーボルト要領図 1/20

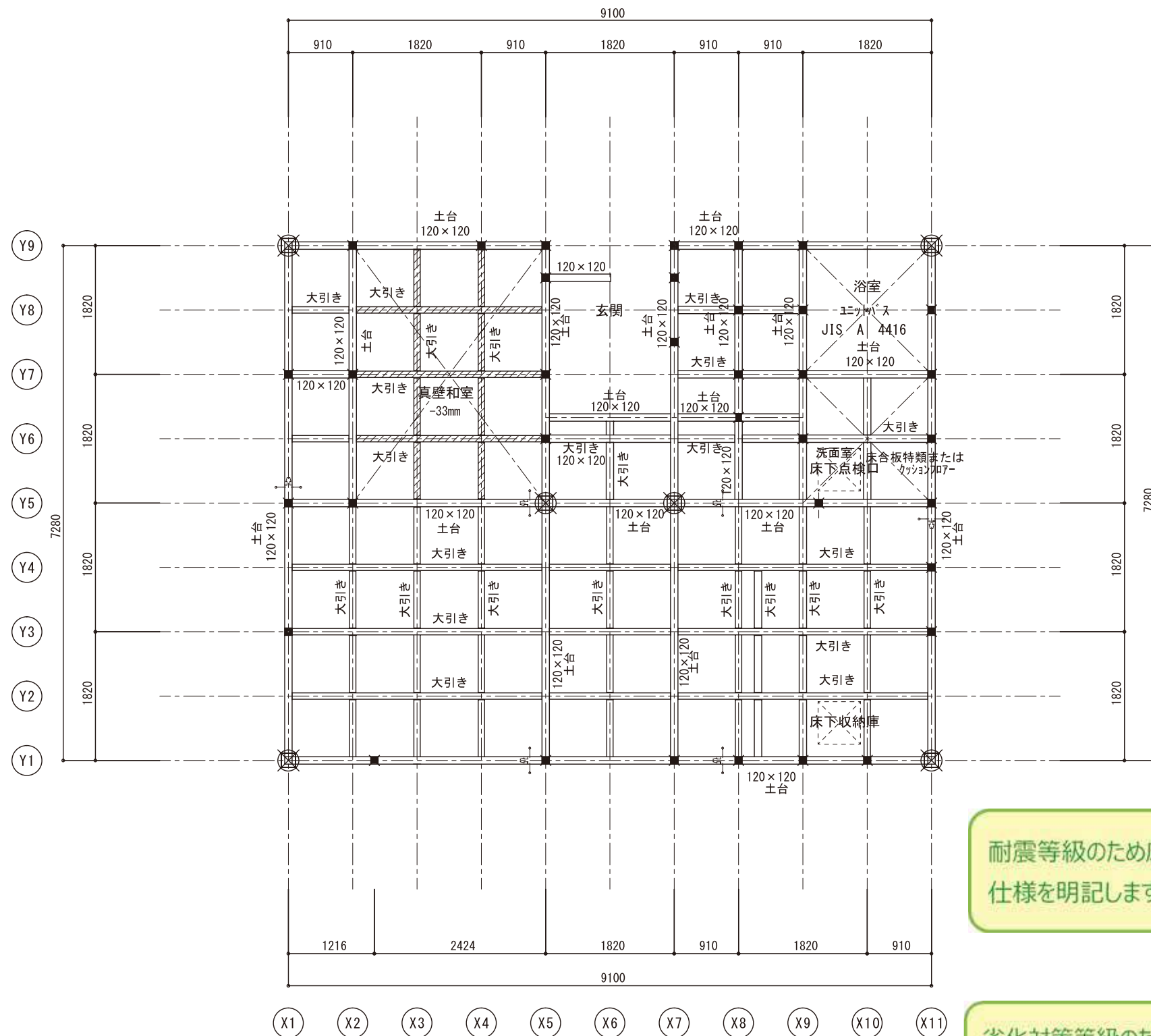
基礎伏図
A2:1/50 A3:1/70

外周部基礎断面図 S=1/30	内部基礎断面図 S=1/30	さや管部分断面図 S=1/25	人入口開口補強 1/40	主筋の補強筋 1/40 (壁開口) 及び (隅角部補強筋)

部分詳細図

※隅角部補強筋も同様に、
耐力壁幅W+40×D×2
の補強筋を設置すること。
*鉄筋のあきを確保する。
*隅角部は90°曲げて定着をとること。

承認	設計	担当	縮尺 A2:1/50 A3:1/70	工事名称 〇〇〇邸 新築工事	S-02 No
				図面名称 基礎伏図	



- 凡例：
- 通し柱：杉 200×200
杉 120×120
 - 管柱：杉 120×120
 - 土台：桧 120×120
 - 大引き、合板受け：桧105×105
 - 土台継ぎ手

柱	120×120 (杉 1等耐久性区分D1))
土台	120×120 桧材 (D1特定樹種)
大引	105×105 桧材 (D1特定樹種)
床合板	厚24mm 構造用合板 釘N75 @150mm以内 直張り：四周釘打ち 洗面所床合板は耐水T1
床束	既製品 (鋼製または、樹脂製)
1F外周部G L+1.0m以下部分は 間柱、筋違い、窓台等の軸組は桧材使用 防蟻防腐処理・・・無し	

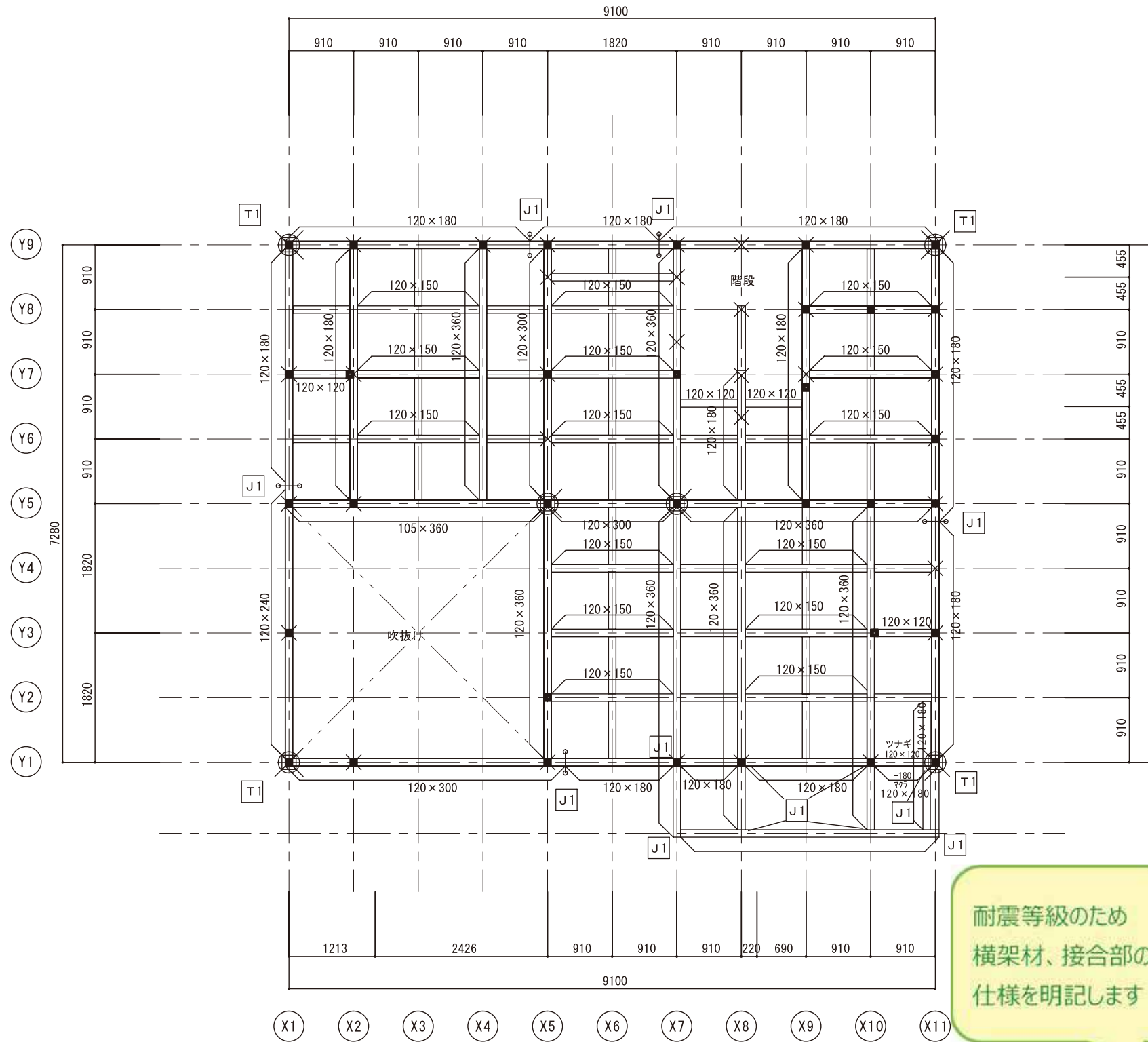
耐震等級のため床組の仕様を明記します

劣化対策等級のため土台等の仕様を明記します

承認 設計 担当
縮 尺 A2: 1/50
A3: 1/70

工事名称 ○ ○ ○ ○ 邸 新 築 工 事
図面名称 土 台 伏 図

S-03



耐震等級のため床組の仕様を明記します

木材リスト

2F 床梁		120×120～ 杉1等 (無等級)	
合板受け材は90×90			
床合板 (2F床部分)		厚24mm 構造用合板	
		釘N75 @150mm以内 直張り：四周釘打ち	
1F 小屋梁		120×120～ 杉1等	
下屋部分 (火打梁)		杉・火打ち梁	

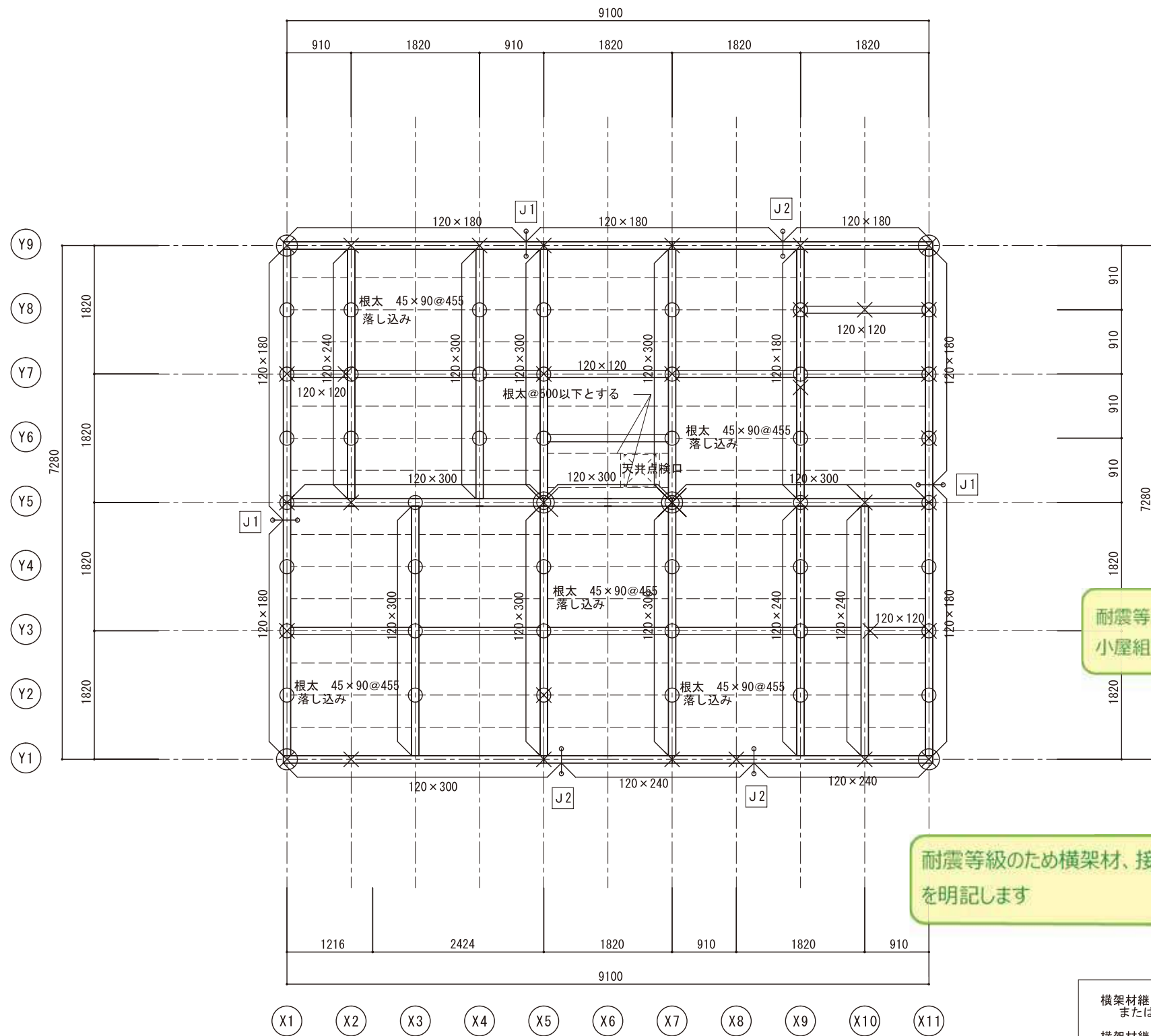
凡 例	
×	1階柱位置 120×120 (杉1等耐久性区分D1)
■	2階柱位置 120×120 (杉1等耐久性区分D1)
⊕	梁継ぎ手位置
⊗	通し柱位置 120×120 200×200 (杉1等耐久性区分D1)

耐震等級のため横架材、接合部の仕様を明記します

横架材継ぎ手 または仕口	J1	(腰掛け蟻継ぎ、鎌継ぎ、または、大入れ蟻掛け) + (羽子板 [※] 1又は短冊金物)
横架材継ぎ手 または仕口	J2	(腰掛け蟻継ぎ、鎌継ぎ、または、大入れ蟻掛け) + (羽子板 [※] 2又は短冊金物×2)
胴差と通し柱	T1	かたぎ大入れ短ホゾ差し + (羽子板 [※] 1又はかね折り金物)
胴差と通し柱	T2	かたぎ大入れ短ホゾ差し + (羽子板 [※] 1又は短冊金物)

承認	設計	担当	縮 尺	A2 : 1/50 A3 : 1/70	工事名称	〇 〇 〇 〇 邸 新 築 工 事
					図面名称	2 階 床 伏 図

S-04



耐震等級のため
小屋組の仕様を明記します

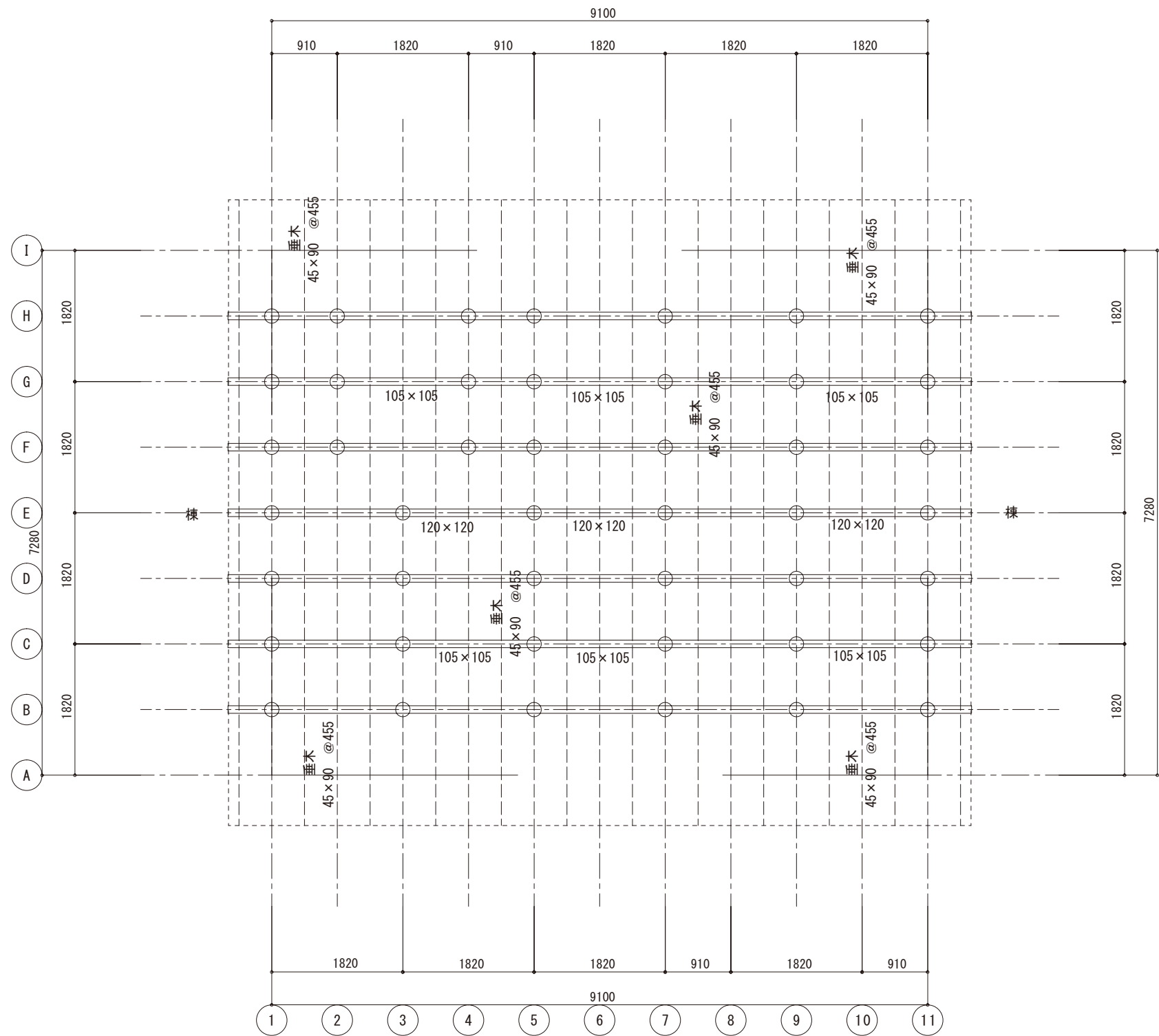
耐震等級のため横架材、接合部の仕様
を明記します

凡 例	
	2階柱位置 120×120 (杉1等耐久性区分D1)
	梁継ぎ手位置
	通し柱位置 120×120 200×200 (杉1等耐久性区分D1)
	小屋束位置 90×90 (外周部は120×120)

木材リスト	
2F 小屋梁	120×120～ 杉1等 特記なき材は、120×120
火打梁	未使用
床合板	厚12mm 構造用合板 根太 45×90 落とし込み 釘N50 @150mm以内

横架材継ぎ手 または仕口	J1	(腰掛け蟻継ぎ、鎌継ぎ、または、大入れ蟻掛け) + (羽子板*1または短冊金物)
横架材継ぎ手 または仕口	J2	(腰掛け蟻継ぎ、鎌継ぎ、または、大入れ蟻掛け) + (羽子板*2または短冊金物×2)
胴差と通し柱	T1	かたぎ大入れ短ホゾ差し+ (羽子板*1またはかね折り金物)
胴差と通し柱	T2	かたぎ大入れ短ホゾ差し+ (羽子板*1または短冊金物)

承認	設計	担当	縮尺	A2: 1/50 A3: 1/70	工事名称	〇〇〇〇邸新築工事	S-05
					図面名称	2階小屋伏図	



凡例

○	小屋束位置 90×90 (一部120×120)
---	-------------------------------

木材リスト

棟木	120×120 杉1等 KD
	杉 無等級
母屋	105×105 杉1等 KD
	杉 無等級
小屋束	105×105 杉1等 KD
	120×120 杉1等 KD
野地板	構造用合板12mm
	釘N50 @150mm以内 タルキ転ばし@455
タルキ	45×90 @455 杉 無等級

承認 設計 担当 縮尺 A2: 1/50
A3: 1/70

工事名称 ○ ○ ○ ○ 邸 新 築 工 事
図面名称 2 F 母 屋 伏 図

S-06